

男女共同参画に関するアンケート調査 報 告 書

平成 27 年 10 月

砺 波 市

目 次

I	調査の概要	1
1	調査目的	1
2	調査項目	1
3	調査対象	1
4	調査期間	1
5	調査方法	1
6	回収結果	1
7	報告書のみかた	1
II	調査回答者の属性	3
III	調査結果	5
1	結婚・家庭生活	5
2	職業	13
3	ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）	16
4	子ども	20
5	高齢期、介護	23
6	社会参加・地域	26
7	政策・方針決定	28
8	D V	31
9	男女共同参画社会	35
	使用した調査票	47

I 調査の概要

調査の概要

1 調査目的

男女参画やワーク・ライフ・バランス、DV等に関する市民の意見等を伺い、男女共同参画推進計画策定に向けた基礎資料とすることを目的とする。

2 調査項目

- | | |
|------------------|-------------|
| (1) 結婚・家庭生活 | (2) 職業 |
| (3) ワーク・ライフ・バランス | (4) 子ども |
| (5) 高齢期、介護 | (6) 社会参加・地域 |
| (7) 政策・方針決定 | (8) DV |
| (9) 男女共同参画社会 | |

3 調査対象

- | | |
|----------|--|
| (1) 調査対象 | 砺波市在住 20 歳以上の男女 |
| (2) 標本数 | 1,000 人 |
| (3) 抽出方法 | 住民基本台帳より無作為抽出
(砺波市総合計画策定に係るアンケート対象者のうち、1,000 人を対象とした) |

4 調査期間

平成 27 年 6 月 23 日～7 月 6 日

5 調査方法

郵送による配布を行い、回収方法は郵送によるものとインターネットによる回答を併用

6 回収結果

標本数	(A)	1,000
有効回収数	(B)	425
回収率	(B/A)	42.5%

7 報告書のみかた

- (1) 調査結果は百分率で表示しています。百分率は小数点以下第 2 位を四捨五入して算出していることから、合計値が 100%にならない場合があります。
- (2) 1 つの質問に対して 2 つ以上の回答を求めているものについて、百分率は回答数を本調査の総回答数で割った数値を表しています。
- (3) 図表中に [N] と記してあるのは、分類別各層の対象者総数を表しています。

Ⅱ 調査回答者の属性

調査回答者の属性

1 性別・年齢

	29歳以下	30歳～39歳	40歳～49歳	50歳～59歳	60歳～69歳	70歳以上	無回答	合計
男性	10 5.8	23 13.5	24 14.0	30 17.5	42 24.6	42 24.6	-	171 100.0
女性	13 5.1	31 12.2	49 19.3	38 15.0	63 24.8	60 23.6	-	254 100.0
計	23 5.4	54 12.7	73 17.2	68 16.0	105 24.7	102 24.0	-	425 100.0

2 結婚

	未婚	既婚	離別・死別	無回答
全 体 (N=425)	12.2	72.2	13.2	2.4
性別 男性 (N=171)	15.2	77.2	5.3	2.3
性別 女性 (N=254)	10.2	68.9	18.5	2.4
年齢別 29歳以下 (N=23)	73.9	26.1	-	-
30歳代 (N= 54)	27.8	70.4	1.9	-
40歳代 (N= 73)	16.4	78.1	4.1	1.4
50歳代 (N= 68)	8.8	86.8	4.4	-
60歳代 (N=105)	1.9	81.9	13.3	2.9
70歳以上 (N=102)	-	59.8	34.3	5.9

3 家族構成

	件数	%
単身世帯	25	5.9
夫婦世帯	81	19.1
二世帯世帯(親と子)	183	43.1
三世帯世帯(親と子と孫)	121	28.5
その他	10	2.4
無回答	5	1.2
計	425	100

4 住まい

	件数	%
持ち家(親等の所有する家を含む)	396	93.2
借家(アパート・マンション)	21	4.9
借家(戸建て)	2	0.5
社宅	1	0.2
市営住宅・公営住宅	4	0.9
その他	1	0.2
無回答	0	0.0
計	425	100

5 職業

	件数	%
農林水産業	15	3.5
製造業	40	9.4
建設業	22	5.2
卸小売業	13	3.1
医療・福祉	37	8.7
宿泊・飲食サービス業	5	1.2
生活関連サービス業・娯楽業	8	1.9
学術研究・専門技術サービス業	10	2.4
不動産・物品賃貸業	1	0.2
公務員・団体職員	42	9.9
パート・アルバイト	51	12.0
学生	4	0.9
家事専業	49	11.5
無職	106	24.9
その他	19	4.5
無回答	3	0.7
計	425	100

Ⅲ 調査結果

調査結果の概要

1 結婚・家庭生活

(1) 結婚・家庭についての考え

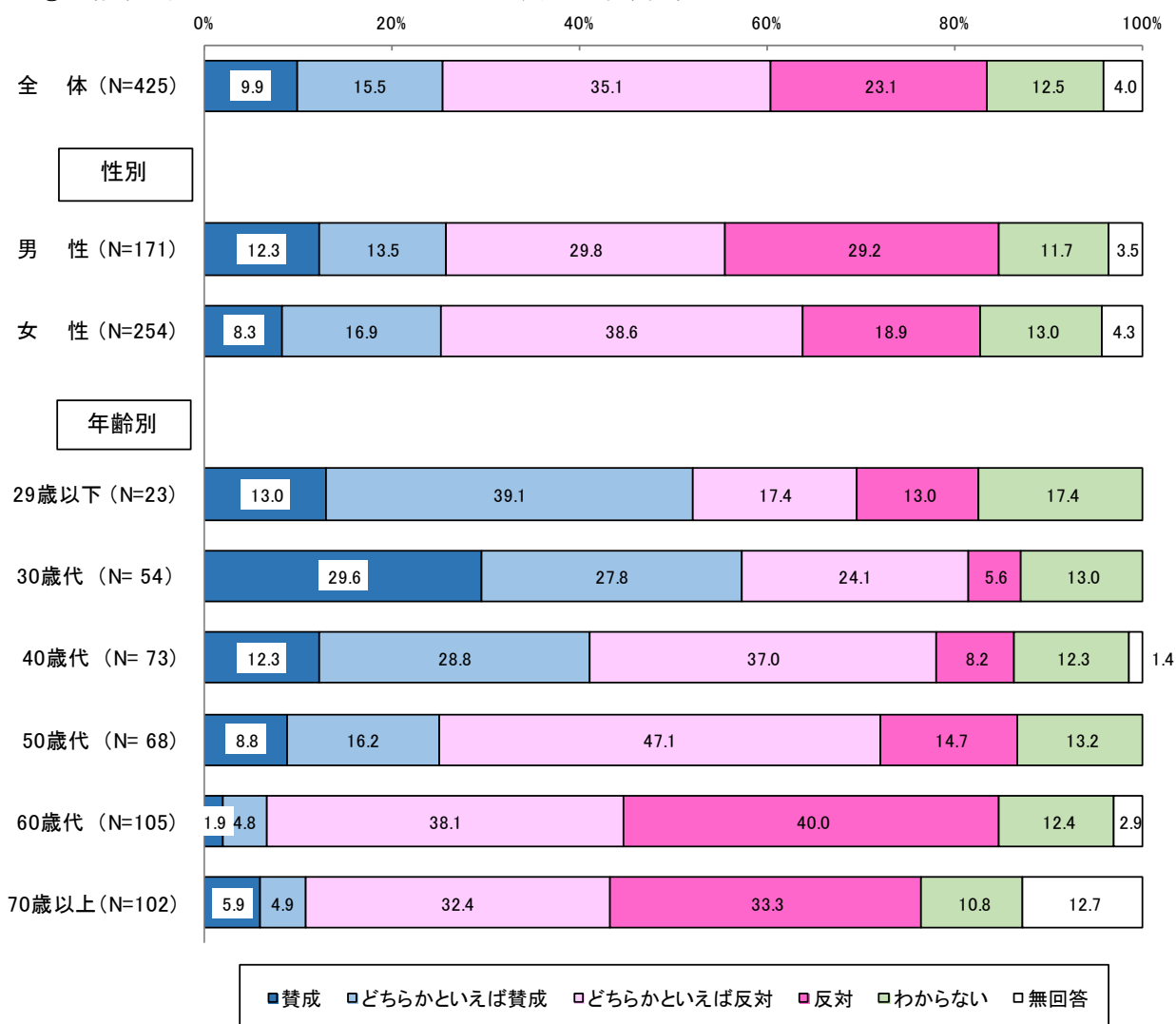
① 結婚は個人の自由でしてもしなくても良い

「結婚は個人の自由でしてもしなくても良い」という考えに対する賛否をきいたところ、「賛成」が 9.9%、「どちらかといえば賛成」が 15.5%、「どちらかといえば反対」が 35.1%、「反対」が 23.1%、「わからない」が 12.5%となっている。

男女別にみると、男性は「反対」が 29.2%と女性に比べて多くなっている。

年代別にみると、30 歳代は「賛成」が 29.6%と他の年代に比べて多い一方、60 歳代は「反対」が 40.0%と多くなっている。

図表 1-1① 結婚は個人の自由でしてもしなくても良い＜単数回答＞



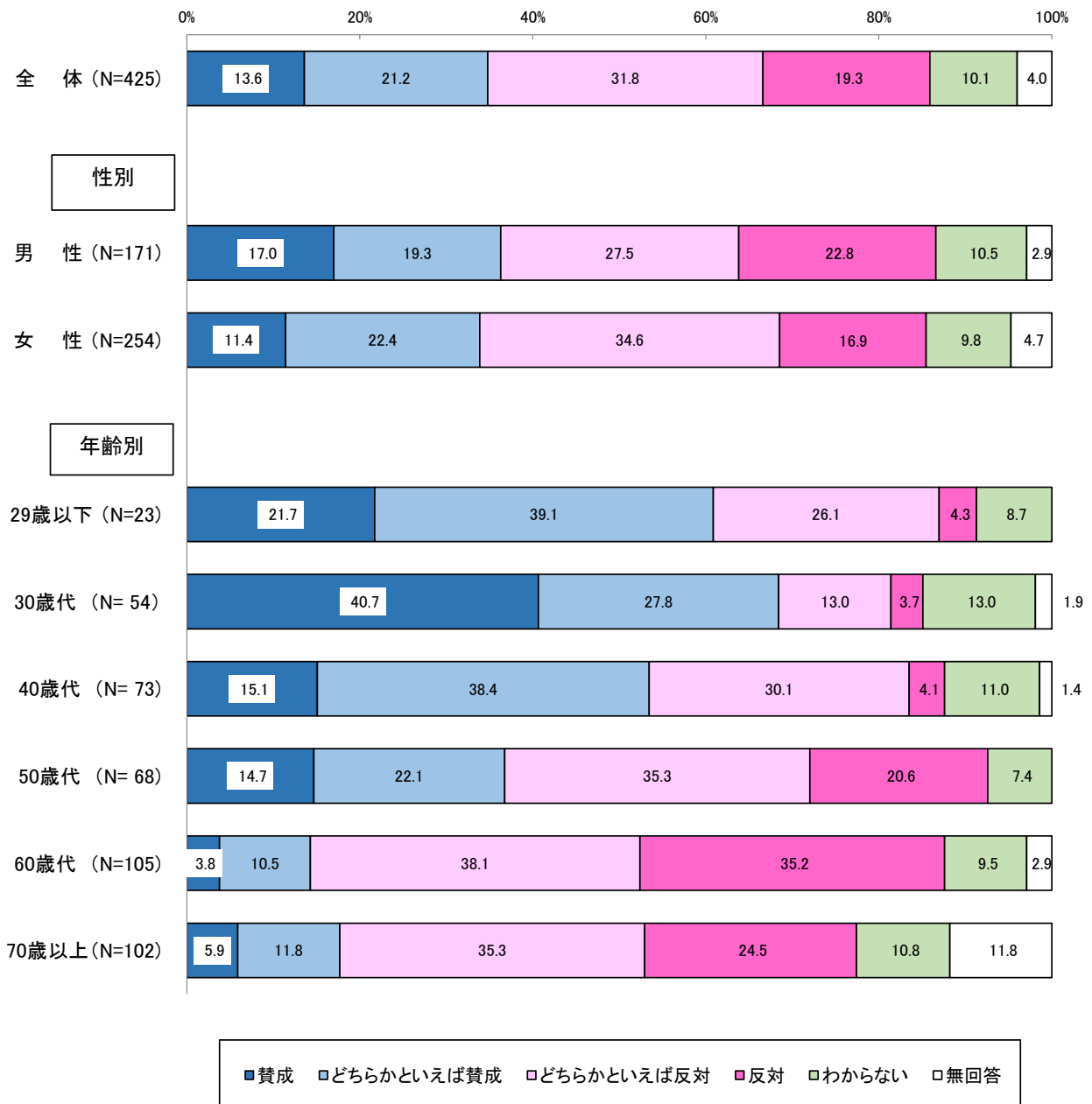
② 結婚しても必ず子どもを持つ必要はない

「結婚しても必ず子どもを持つ必要はない」という考えに対する賛否をきいたところ、「賛成」が13.6%、「どちらかといえば賛成」が21.2%、「どちらかといえば反対」が31.8%、「反対」が19.3%、「わからない」が10.1%となっている。

男女別にみると、男性は「賛成」、「反対」ともに女性に比べて多くなっている。

年代別にみると、30歳代で「賛成」が40.7%と多い一方、60歳代で「反対」が35.2%と多くなっている。

図表 1-1② 結婚しても必ず子どもを持つ必要はない＜単数回答＞



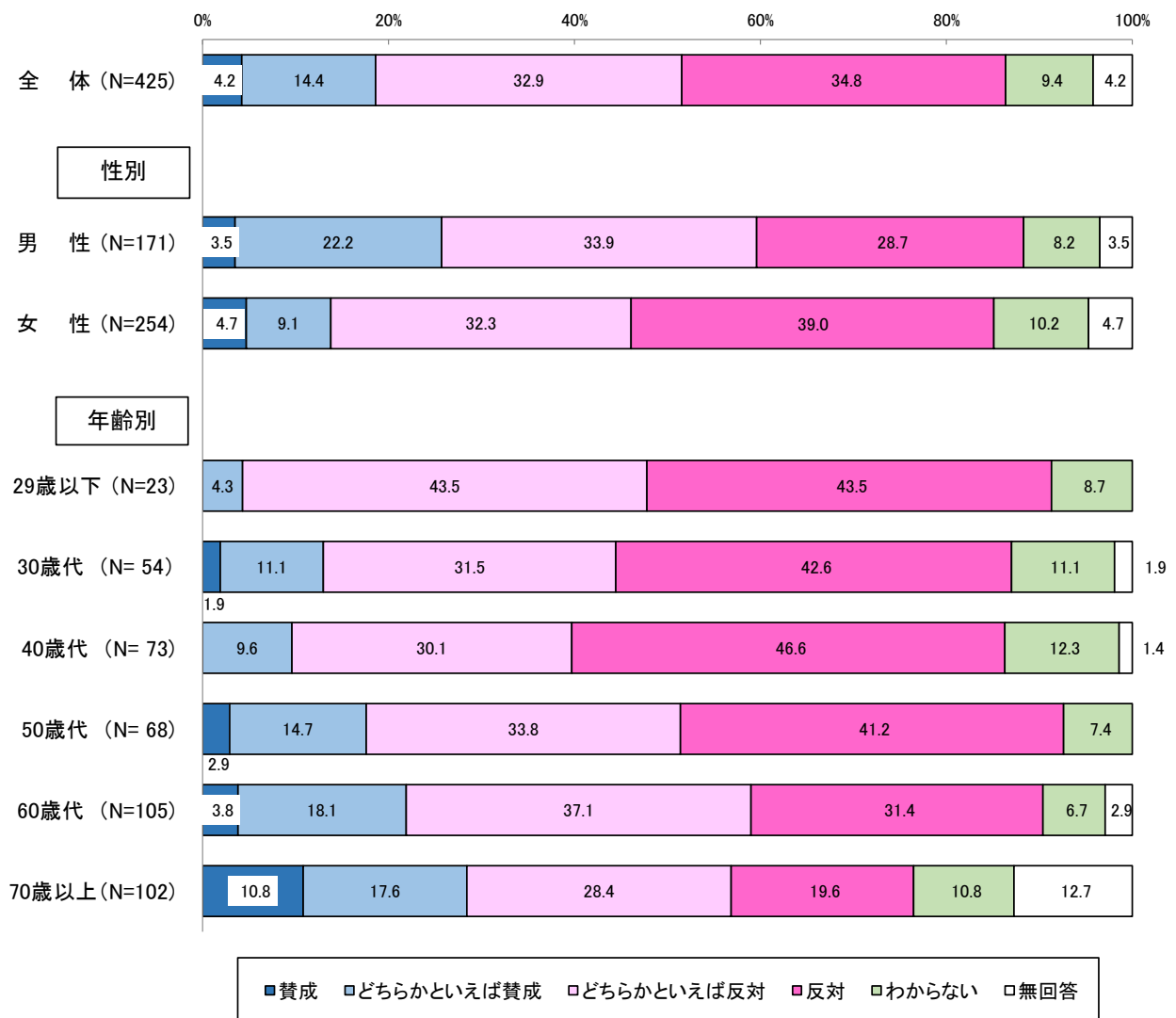
③ 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考えに対する賛否をきいたところ、「賛成」が4.2%、「どちらかといえば賛成」が14.4%、「どちらかといえば反対」が32.9%、「反対」が34.8%、「わからない」が9.4%となっている。

男女別にみると、女性は「反対」が39.0%と男性に比べて多くなっている。

年代別にみると、年代が高いほど、「賛成」および「どちらかといえば賛成」が多い傾向にある。

図表 1-1③ 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである＜単数回答＞



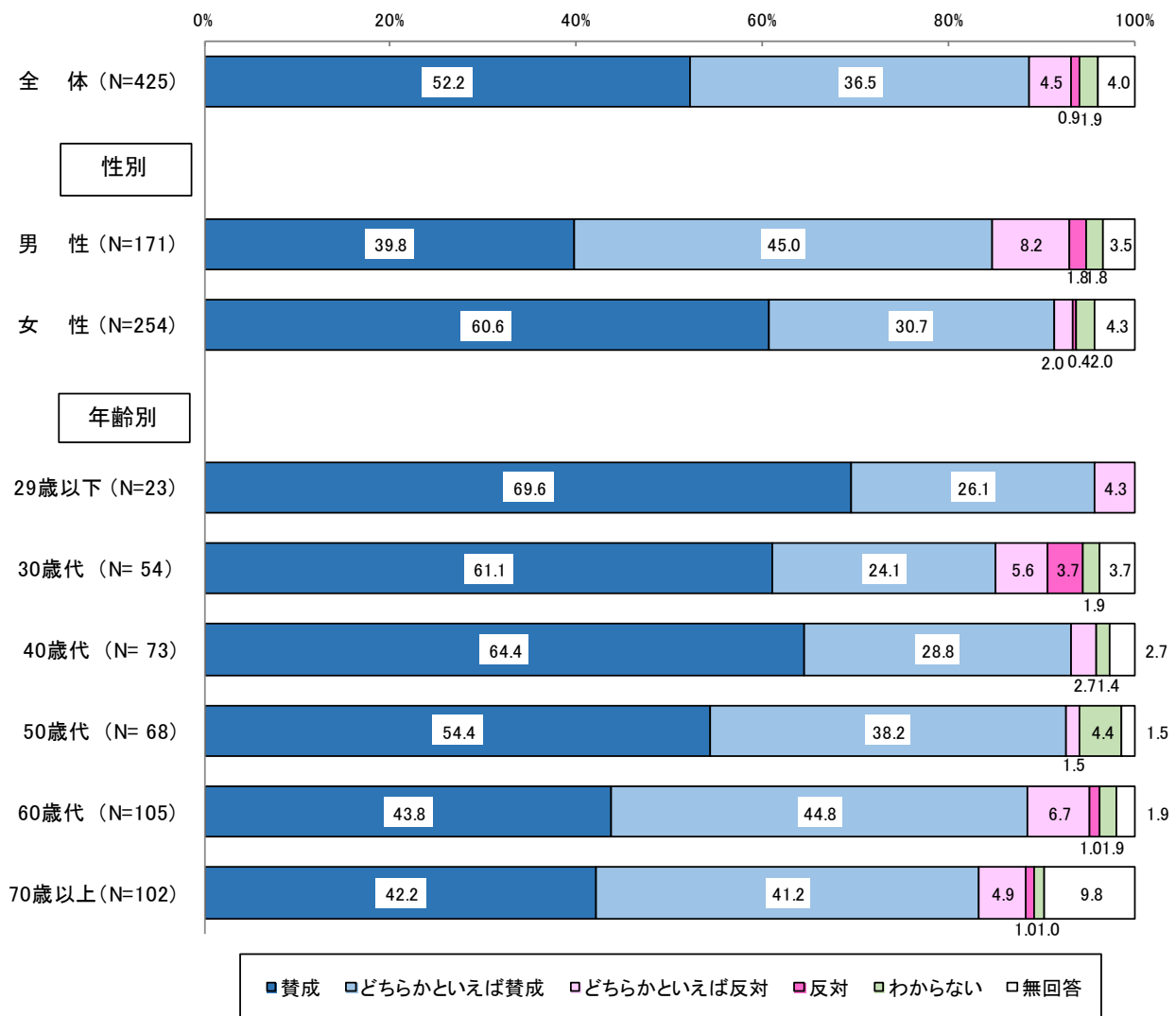
④ 夫妻共同して家事・育児・介護すべき

「夫妻共同して家事・育児・介護すべき」という考えに対する賛否をきいたところ、「賛成」が52.2%、「どちらかといえば賛成」が36.5%と賛成派が約9割を占めている。「どちらかといえば反対」が4.5%、「反対」が0.9%、「わからない」が1.9%となっている。

男女別にみると、女性は「賛成」が60.6%と男性に比べて多くなっている。

年代別にみると、年代が低いほど、「賛成」が多い傾向にある。

図表 1-1④ 夫妻共同して家事・育児・介護すべき＜単数回答＞



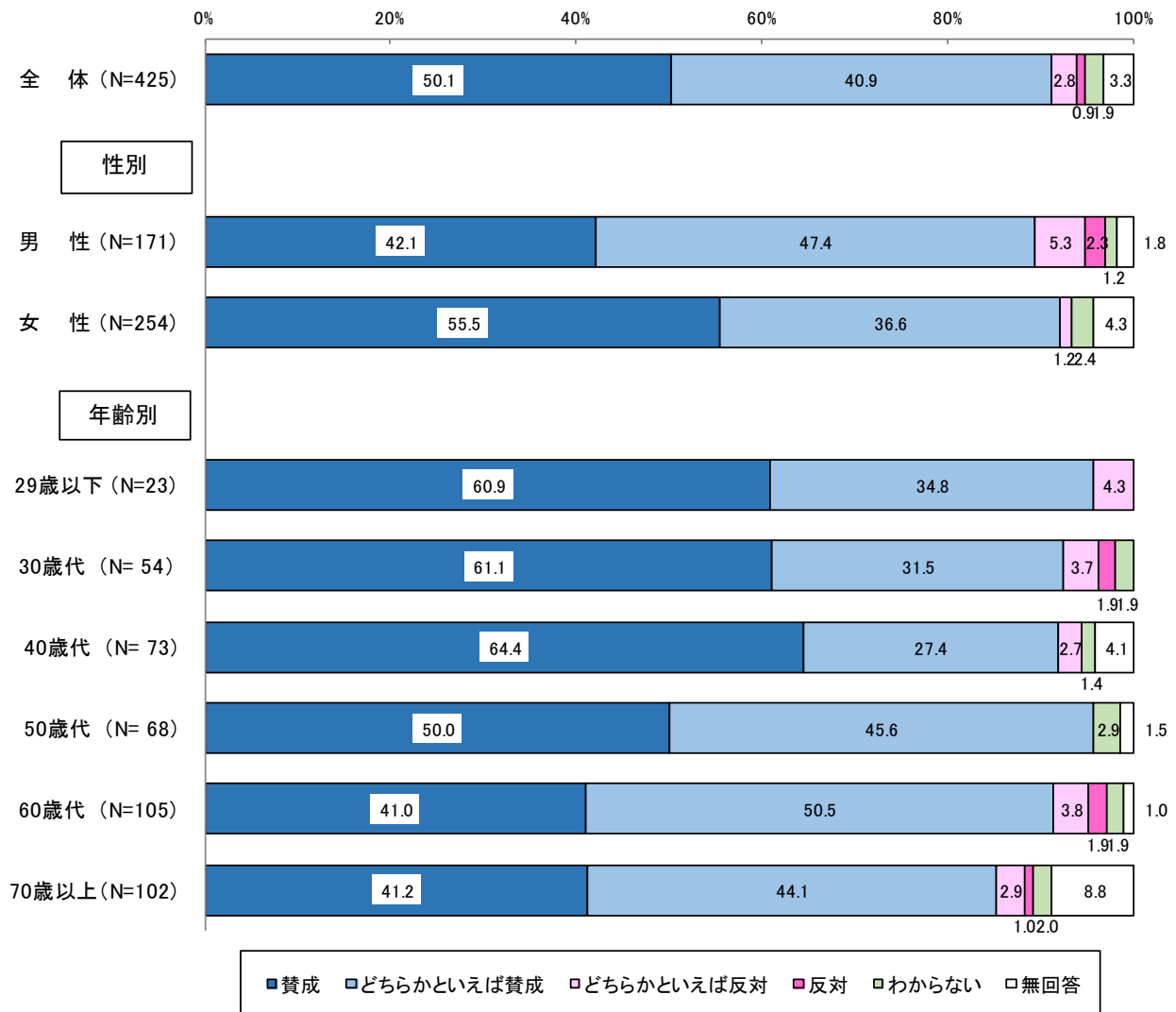
⑤ 夫も家事・育児・介護を手伝うべき

「夫も家事・育児・介護を手伝うべき」という考えに対する賛否をきいたところ、「賛成」が50.1%、「どちらかといえば賛成」が40.9%と賛成派が9割超となっている。「どちらかといえば反対」が2.8%、「反対」が0.9%、「わからない」が1.9%となっている。

男女別にみると、女性は「賛成」が55.5%と男性に比べて多くなっている。

年代別にみると、「賛成」とする人は「40歳代以下」で6割台であるのに対し、「60歳以上」で約4割と少なくなっている。

図表 1-1⑤ 夫も家事・育児・介護を手伝うべき＜単数回答＞



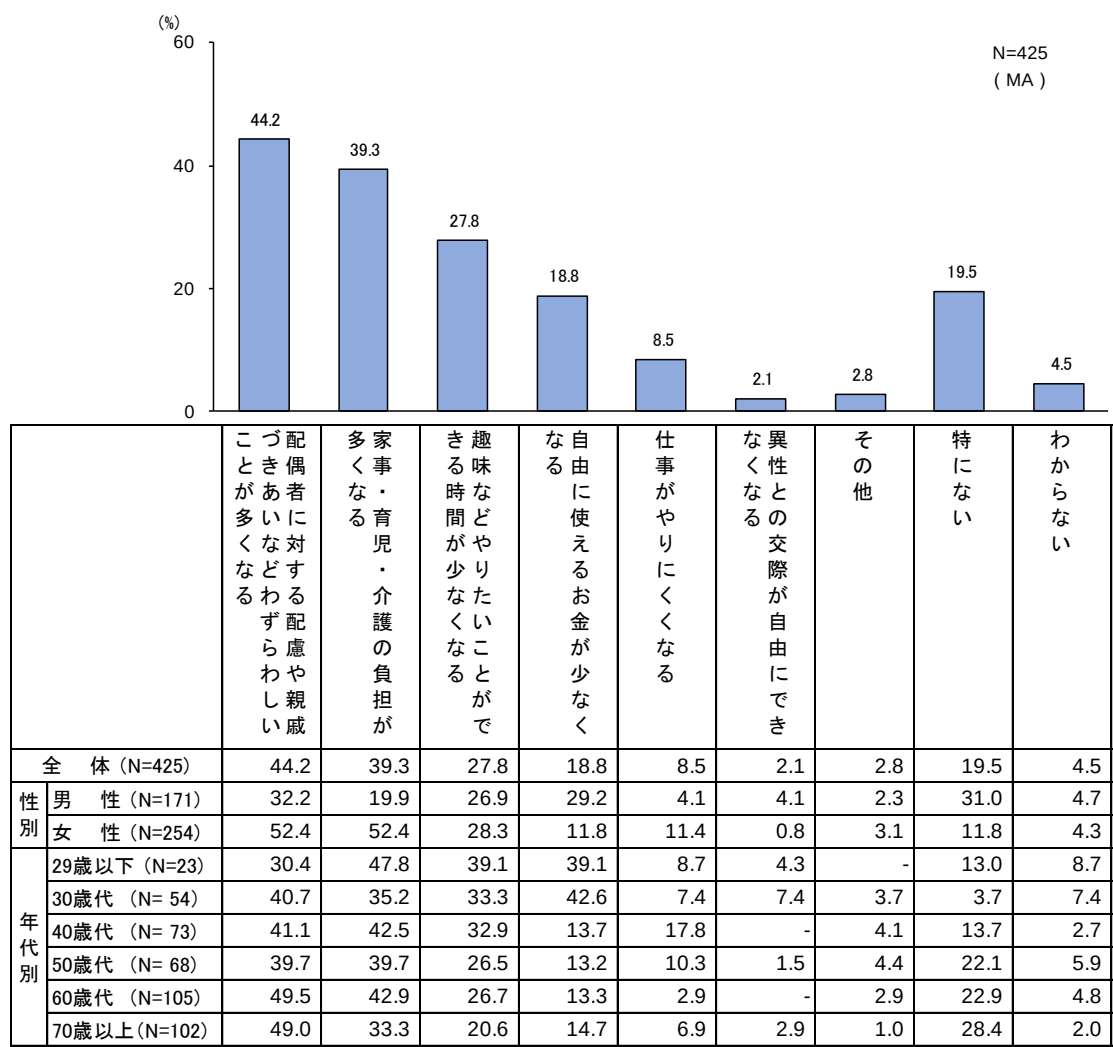
(2) 結婚が負担に感じられること

結婚が負担に感じられることをきいたところ、「配偶者に対する配慮や親戚づきあいなどわずらわしいことが多くなる」が44.2%と最も多く、次いで「家事・育児・介護の負担が多くなる」が39.3%、「趣味などやりたいことができる時間が少なくなる」が27.8%、「自由に使えるお金が少なくなる」が18.8%の順となっている。

男女別にみると、男性は「自由に使えるお金が少なくなる」が女性に比べて多く、女性は「配偶者に対する配慮や親戚づきあいなどわずらわしいことが多くなる」、「家事・育児・介護の負担が多くなる」が男性に比べて多くなっている。

年代別にみると、年代が高いほど「配偶者に対する配慮や親戚づきあいなどわずらわしいことが多くなる」が多い傾向にある。また、「30歳代以下」で「自由に使えるお金が少なくなる」が約4割と他の年代に比べて多くなっている。

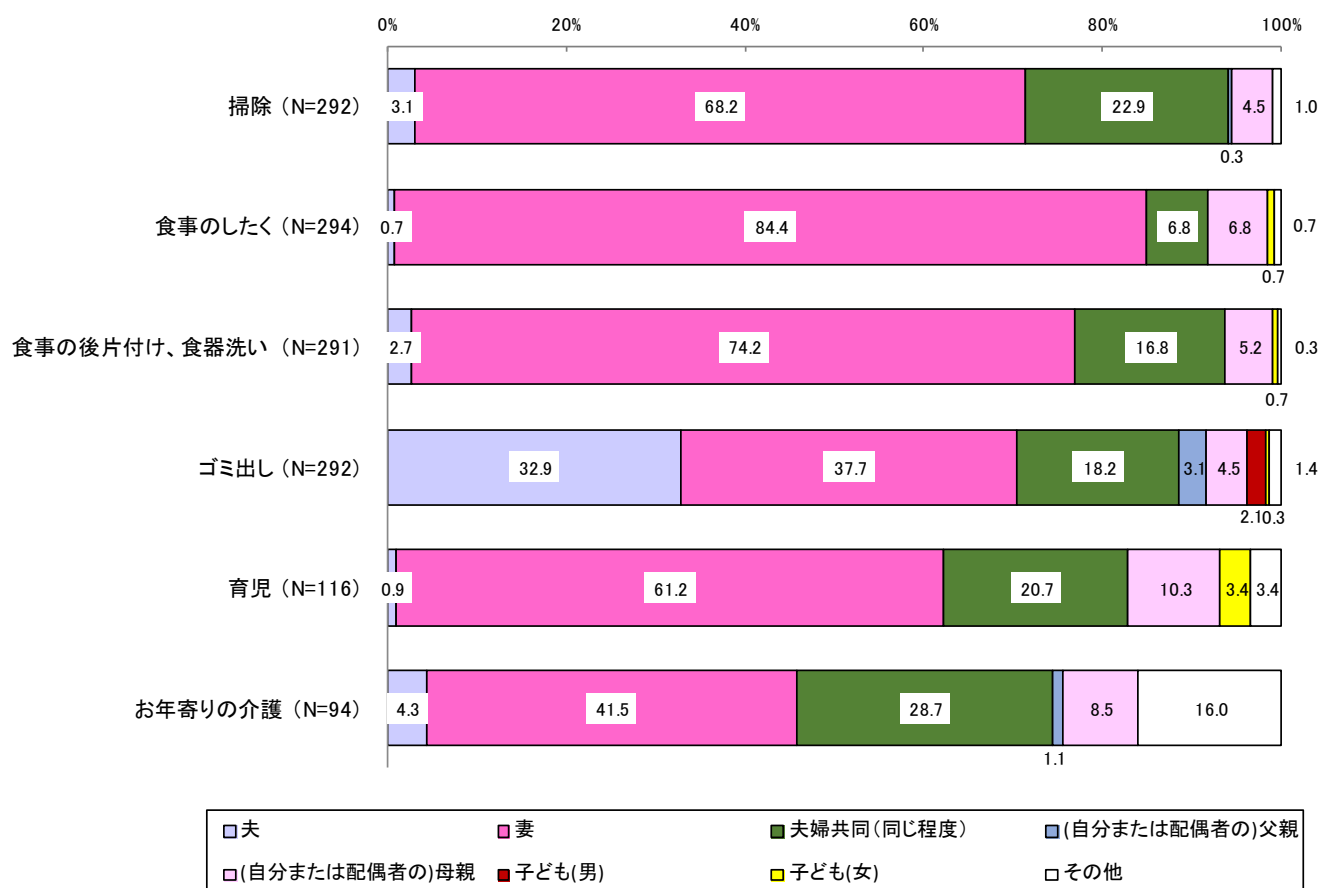
図表 1-2 結婚が負担に感じられること＜複数回答＞



(3) 家事等の分担

配偶者がいる人に、家事等の分担状況をきいたところ、「夫」とした人が最も多かったのは、「ゴミ出し」の32.9%であり、次いで「お年寄りの介護」4.3%、「掃除」3.1%の順となっている。また、「妻」とした人が最も多かったのは、「食事のしたく」の84.4%であり、次いで「食事の後片付け、食器洗い」74.2%、「掃除」68.2%の順となっている。

図表 1-3 家事等の分担＜複数回答＞



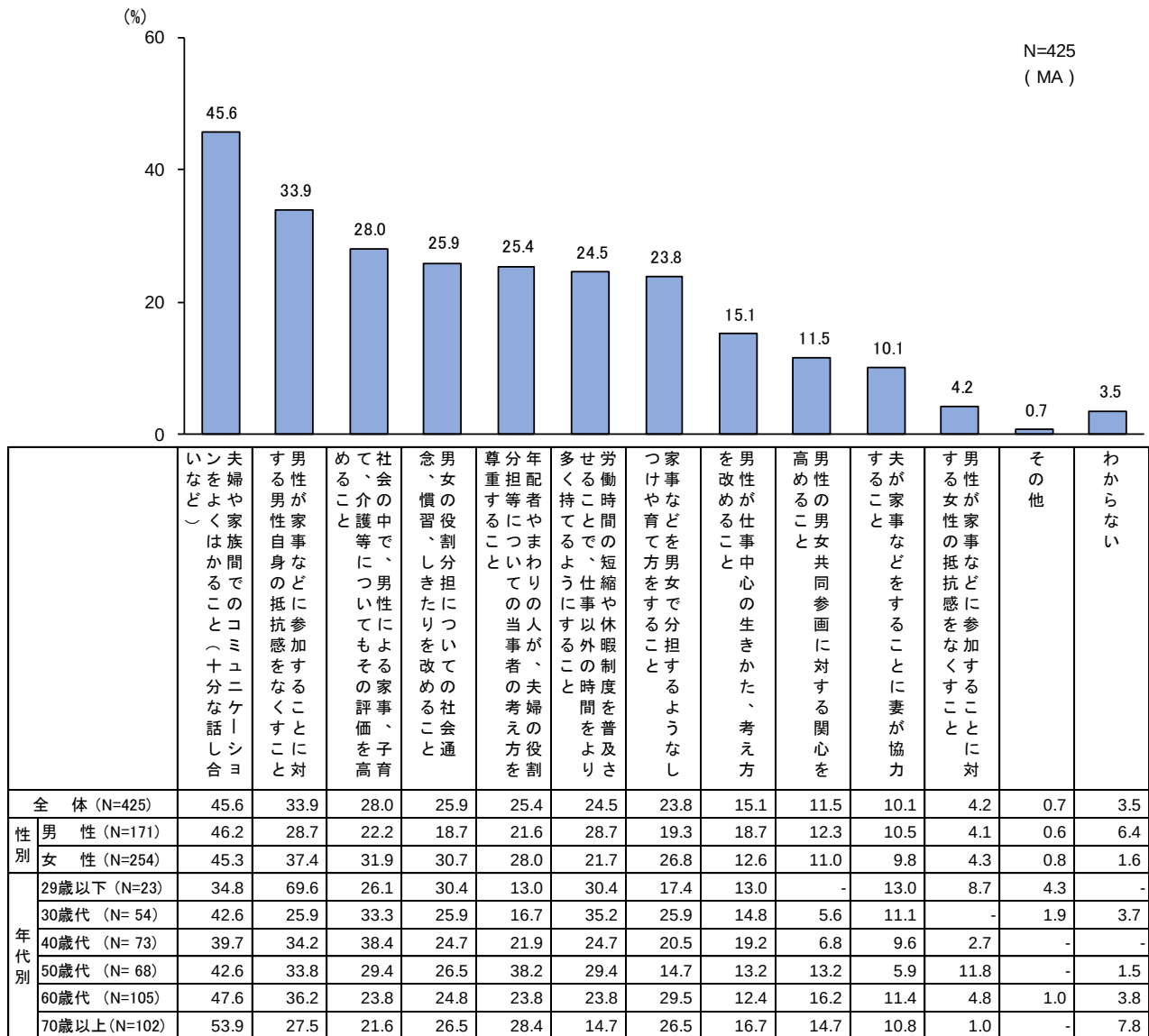
(4) 男性が積極的に家事・育児・介護に参加するために必要なこと

男性が積極的に家事・育児・介護に参加するために必要なことをきいたところ、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること（十分な話し合いなど）」が 45.6%と最も多く、次いで「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」が 33.9%、「社会の中で、男性による家事、子育て、介護等についてもその評価を高めること」が 28.0%の順となっている。

男女別にみると、男性は「労働時間の短縮や休暇制度を普及させることで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」が女性に比べて多く、女性は「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」、「社会の中で、男性による家事、子育て、介護等についてもその評価を高めること」、「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」が男性に比べて多くなっている。

年代別にみると、「29 歳以下」で「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」が 69.6%と他の年代に比べて多くなっている。

図表 1-4 男性が積極的に家事・育児・介護に参加するために必要なこと＜複数回答＞



2 職業

(1) 女性の働き方

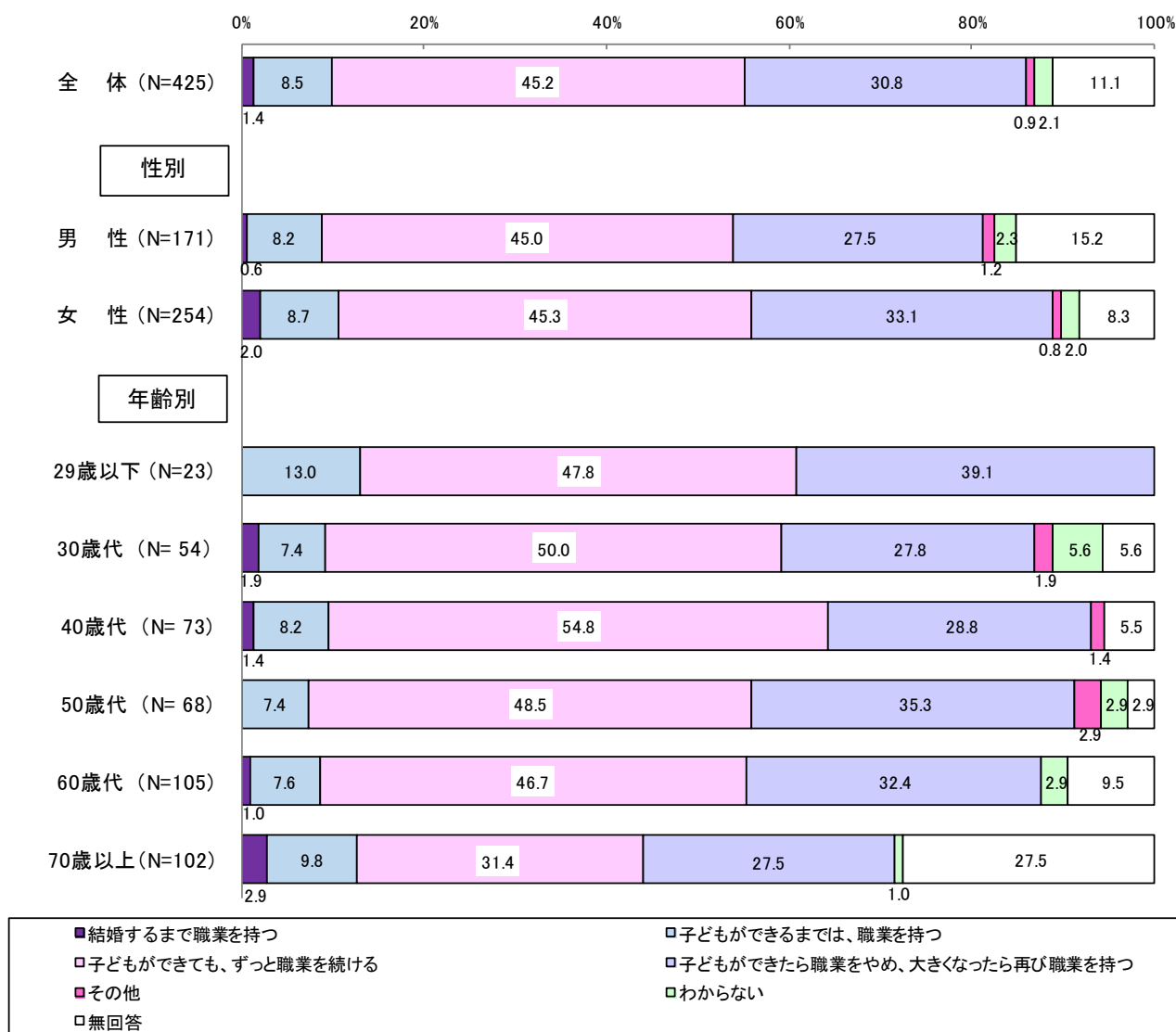
① 女性の理想の働き方

女性の働き方をきいたところ、理想の働き方については、「結婚するまで職業を持つ」が1.4%、「子どもができるまでは、職業を持つ」が8.5%、「子どもができて、ずっと職業を続ける」が45.2%、「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ」が30.8%などとなっている。

男女別にみると、女性は「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ」が33.1%と男性に比べてやや多くなっている。

年代別にみると、「29歳以下」は「子どもができるまでは、職業を持つ」が13.0%、「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ」が39.1%と他の年代に比べて多くなっている。

図表 2-1① 女性の理想の働き方＜単数回答＞



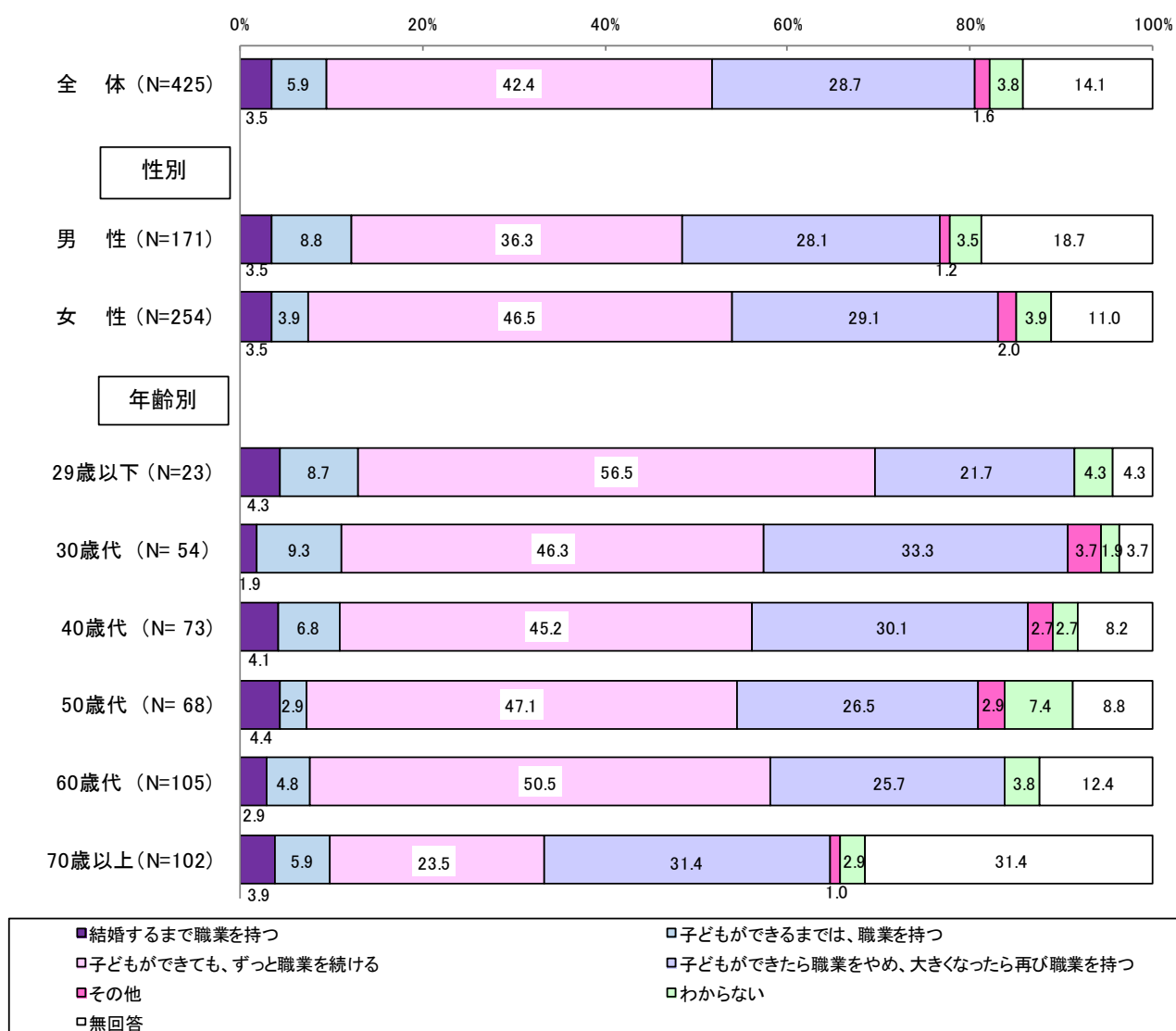
② 女性の現実の働き方

現実の働き方については、「結婚するまで職業を持つ」が 3.5%、「子どもができるまでは、職業を持つ」が 5.9%、「子どもができて、ずっと職業を続ける」が 42.4%、「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ」が 28.7%などとなっている。

男女別にみると、女性は「子どもができて、ずっと職業を続ける」が 46.5%と多くなっている。

年代別にみると、「29 歳以下」は「子どもができて、ずっと職業を続ける」が 56.5%と多くなっている。

図表 2-1② 女性の現実の働き方＜単数回答＞



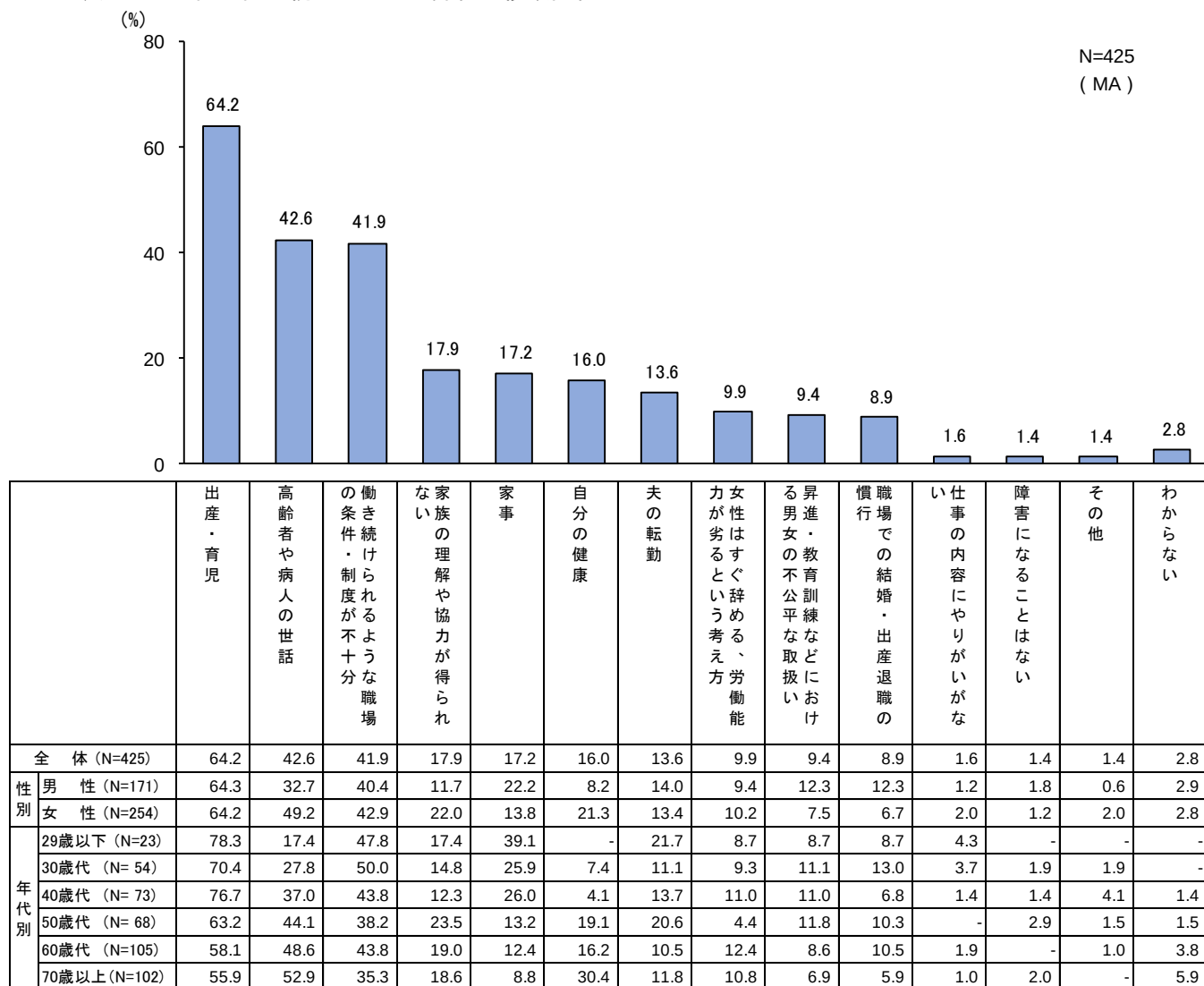
(2) 女性が働き続ける上での障害

女性が働き続ける上での障害についてきいたところ、「出産・育児」が 64.2%と最も多く、次いで「高齢者や病人の世話」が 42.6%、「働き続けられるような職場の条件・制度が不十分」が 41.9%の順となっている。

男女別にみると、男性は「家事」が女性に比べて多く、女性は「高齢者や病人の世話」、「家族の理解や協力が得られない」、「自分の健康」が男性に比べて多くなっている。

年代別にみると、年代が低いほど「出産・育児」や「家事」が多く、年代が高いほど「高齢者や病人の世話」や「自分の健康」が多い傾向にある。

図表 2-2 女性が働き続ける上での障害＜複数回答＞



3 ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)

(1) ワーク・ライフ・バランス実現に必要なこと

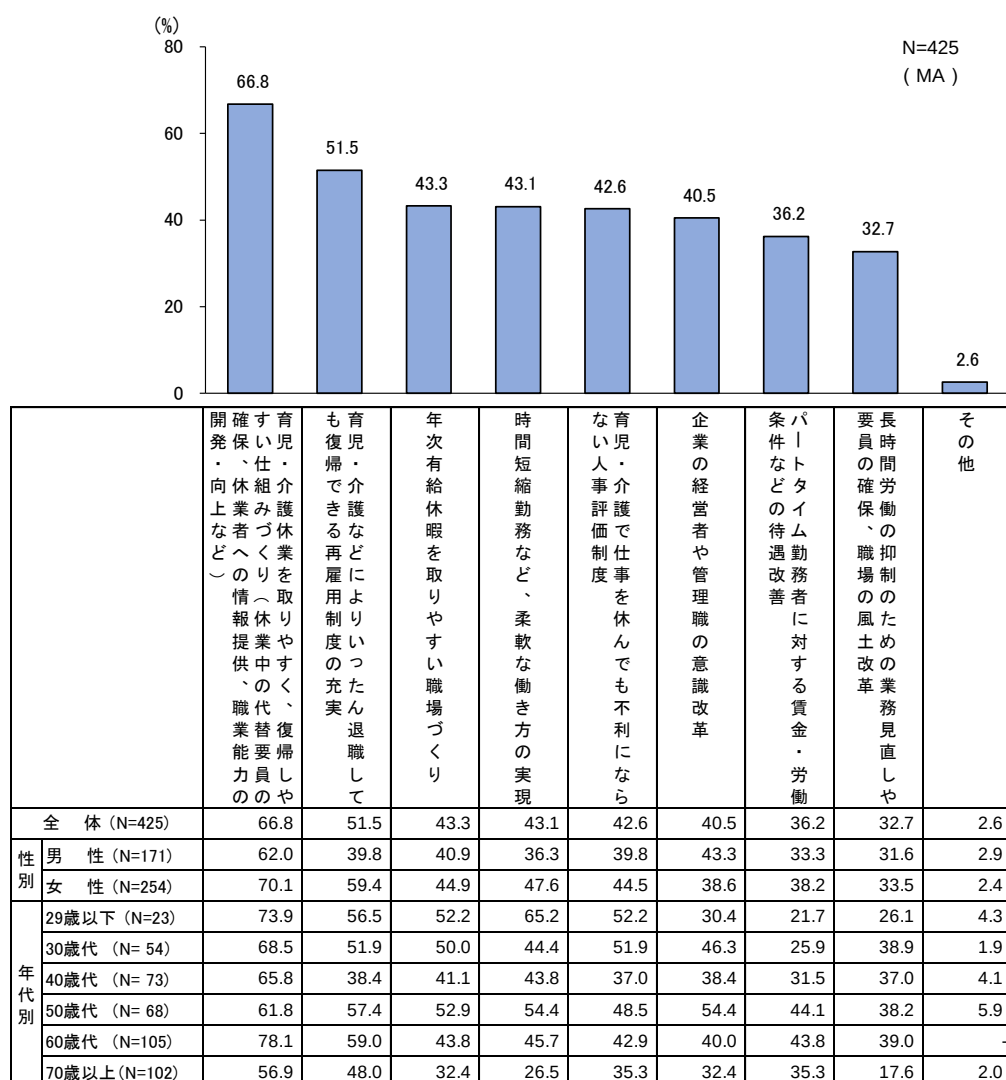
① 企業

ワーク・ライフ・バランス実現に必要なことについてきいたところ、企業においては、「育児・介護休業を取りやすく、復帰しやすい仕組みづくり（休業中の代替要員の確保、休業者への情報提供、職業能力の開発・向上など）」が 66.8%と最も多く、次いで「育児・介護などによりいったん退職しても復帰できる再雇用制度の充実」が 51.5%、「年次有給休暇を取りやすい職場づくり」が 43.3%、「時間短縮勤務など、柔軟な働き方の実現」が 43.1%、「育児・介護で仕事を休んでも不利にならない人事評価制度」が 42.6%などとなっている。

男女別にみると、女性は「育児・介護などによりいったん退職しても復帰できる再雇用制度の充実」が 59.4%と男性に比べて多くなっている。

年代別にみると、各年代で「育児・介護休業を取りやすく、復帰しやすい仕組みづくり（休業中の代替要員の確保、休業者への情報提供、職業能力の開発・向上など）」が最も多くなっている。

図表 3-1① ワーク・ライフ・バランス実現に必要なこと【企業】＜複数回答＞



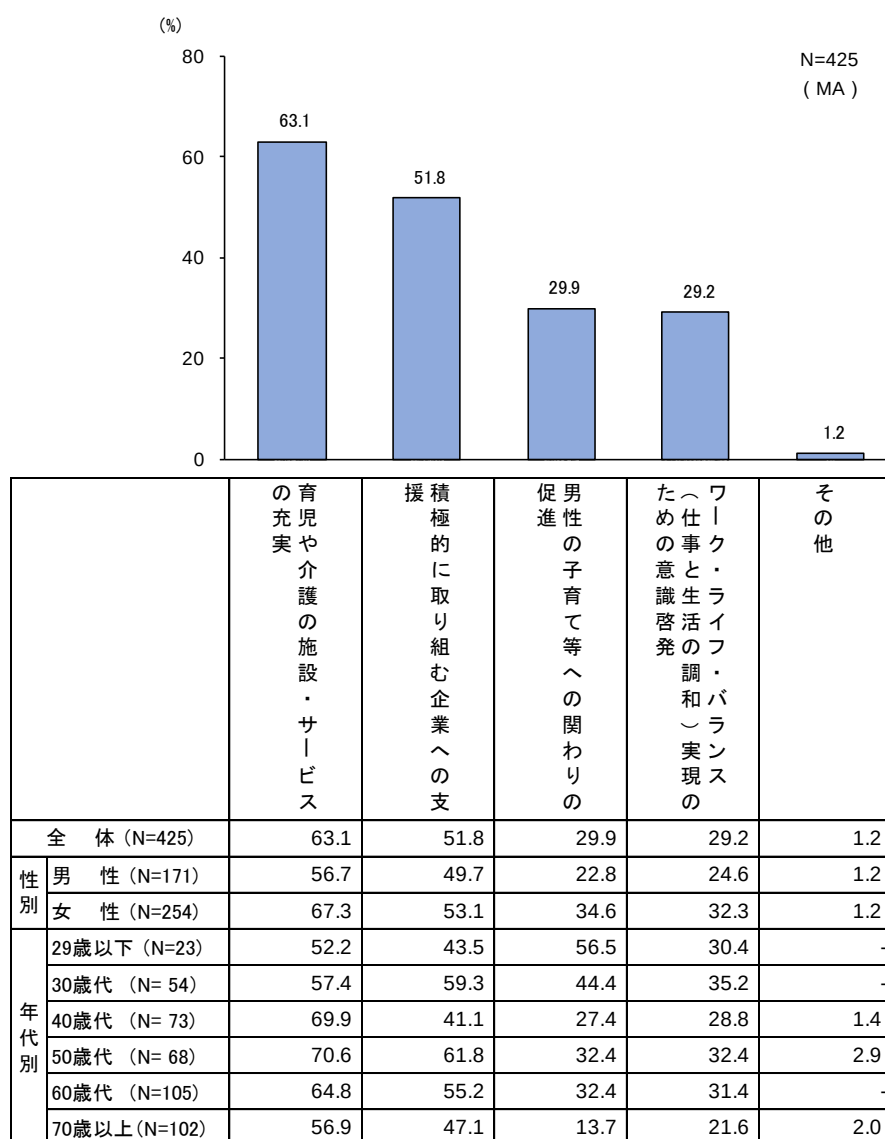
② 行政

行政においては、「育児や介護の施設・サービスの充実」が 63.1%と最も多く、次いで「積極的に取り組む企業への支援」が 51.8%、「男性の子育て等への関わりの促進」が 29.9%、「ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和) 実現のための意識啓発」が 29.2%などとなっている。

男女別にみると、女性は各項目とも男性に比べて多くなっている。

年代別にみると、「29 歳以下」は「男性の子育て等への関わりの促進」、「30 歳代」は「積極的に取り組む企業への支援」が最も多く、「40 歳代以上」は「育児や介護の施設・サービスの充実」が最も多くなっている。

図表 3-1② ワーク・ライフ・バランス実現に必要なこと【行政】＜複数回答＞



(2) ワーク・ライフ・バランスに対して望ましい生き方

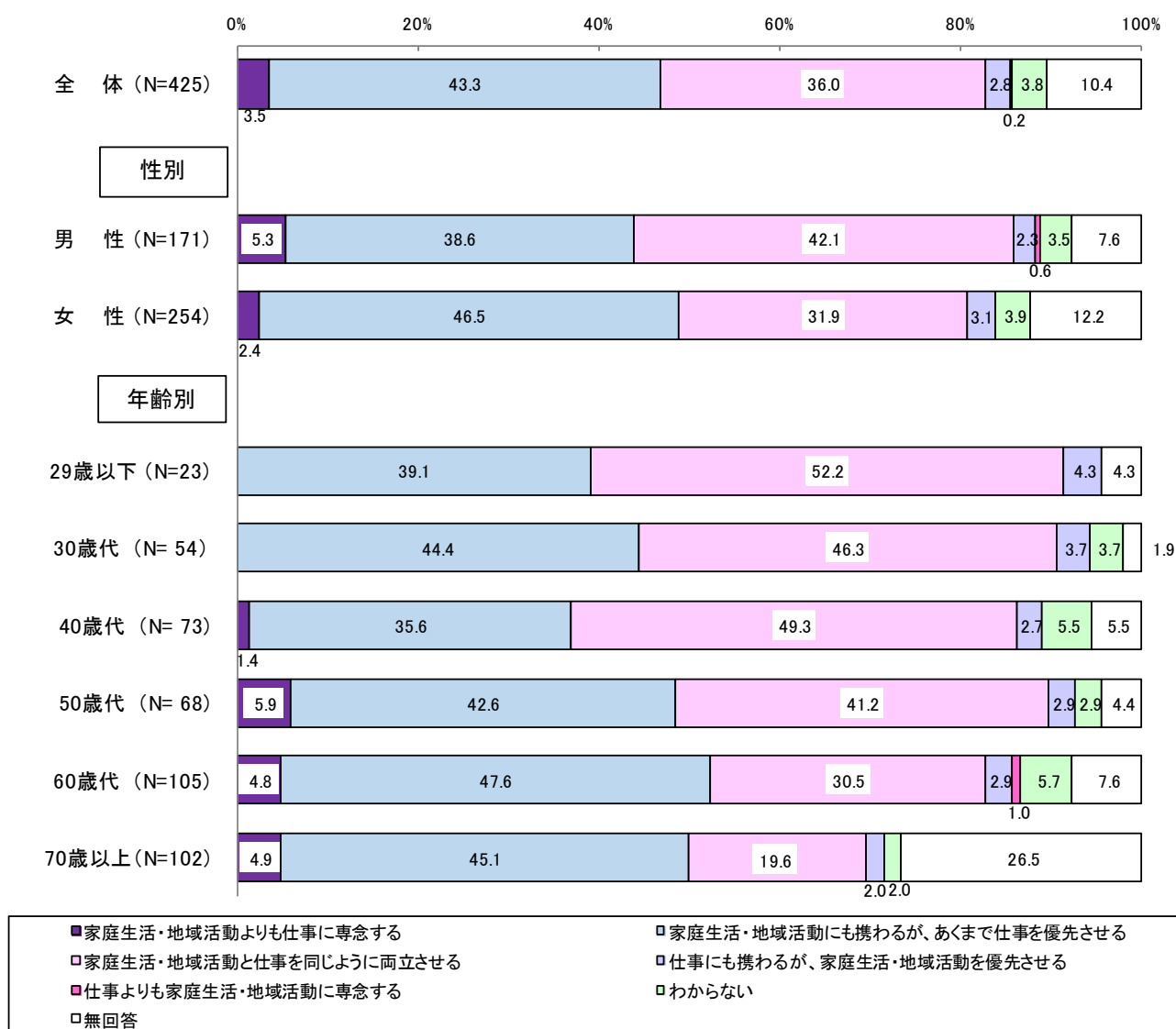
① 男性の生き方

ワーク・ライフ・バランスに対して望ましい生き方をきいたところ、男性については、「家庭生活・地域活動よりも仕事に専念する」が3.5%、「家庭生活・地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる」が43.3%、「家庭生活・地域活動と仕事を同じように両立させる」が36.0%、「仕事にも携わるが、家庭生活・地域活動を優先させる」が2.8%、「仕事よりも家庭生活・地域活動に専念する」が0.2%などとなっている。

男女別にみると、男性は「家庭生活・地域活動と仕事を同じように両立させる」が42.1%と多くなっている。

年代別にみると、年代が低いほど「家庭生活・地域活動と仕事を同じように両立させる」が多い傾向にある。

図表 3-2① ワーク・ライフ・バランスに対して望ましい生き方【男性】＜複数回答＞



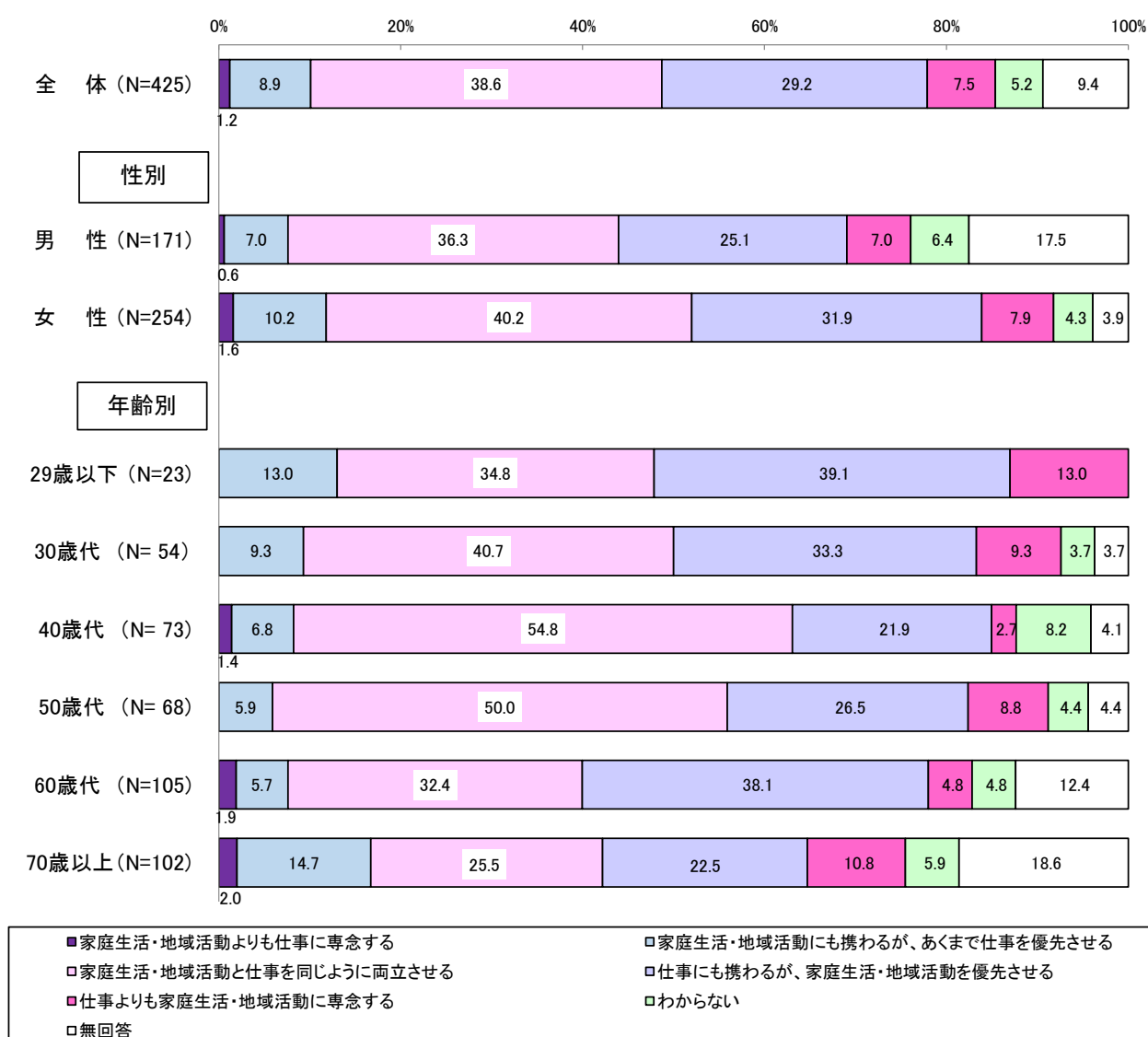
② 女性の生き方

女性については、「家庭生活・地域活動よりも仕事に専念する」が 1.2%、「家庭生活・地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる」が 8.9%、「家庭生活・地域活動と仕事を同じように両立させる」が 38.6%、「仕事にも携わるが、家庭生活・地域活動を優先させる」が 29.2%、「仕事よりも家庭生活・地域活動に専念する」が 7.5%などとなっている。

男女別にみると、女性は「家庭生活・地域活動と仕事を同じように両立させる」、「仕事にも携わるが、家庭生活・地域活動を優先させる」がともに男性に比べてやや多くなっている。

年代別にみると、「40 歳代」で「家庭生活・地域活動と仕事を同じように両立させる」が 54.8%と他の年代に比べて多くなっている。

図表 3-2② ワーク・ライフ・バランスに対して望ましい生き方【女性】＜複数回答＞



4 子ども

(1) 子どもの数

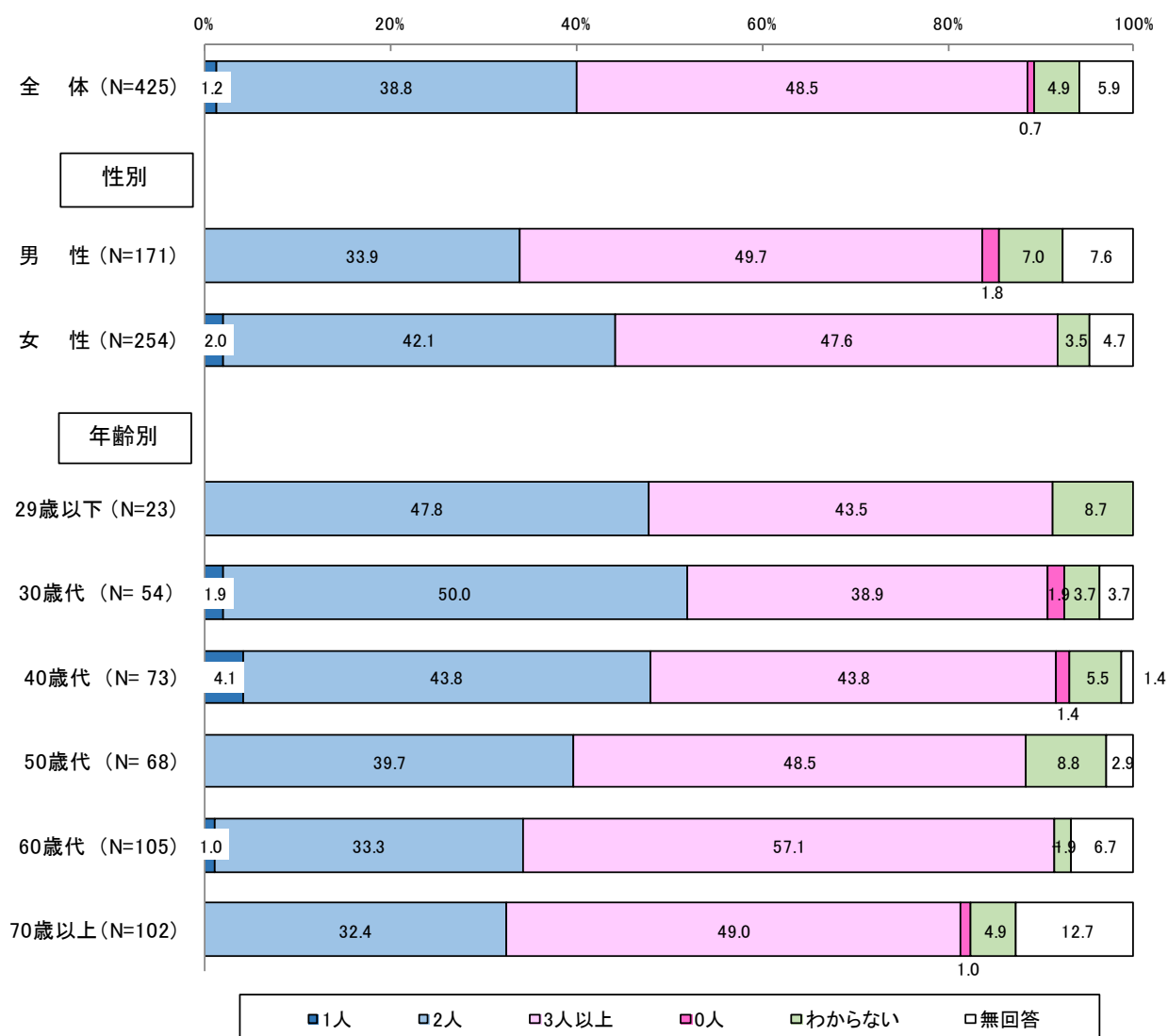
① 理想の子どもの数

子どもの数をきいたところ、理想の子どもの数については、「1人」が1.2%、「2人」が38.8%、「3人以上」が48.5%となっている一方、「0人」が0.7%などとなっている。

男女別にみると、男女とも「3人以上」が約半数となっている。

年代別にみると、年代が低いほど「2人」が多く、年代が高いほど「3人以上」が多い傾向にある。

図表 4-1① 理想の子どもの数＜単数回答＞



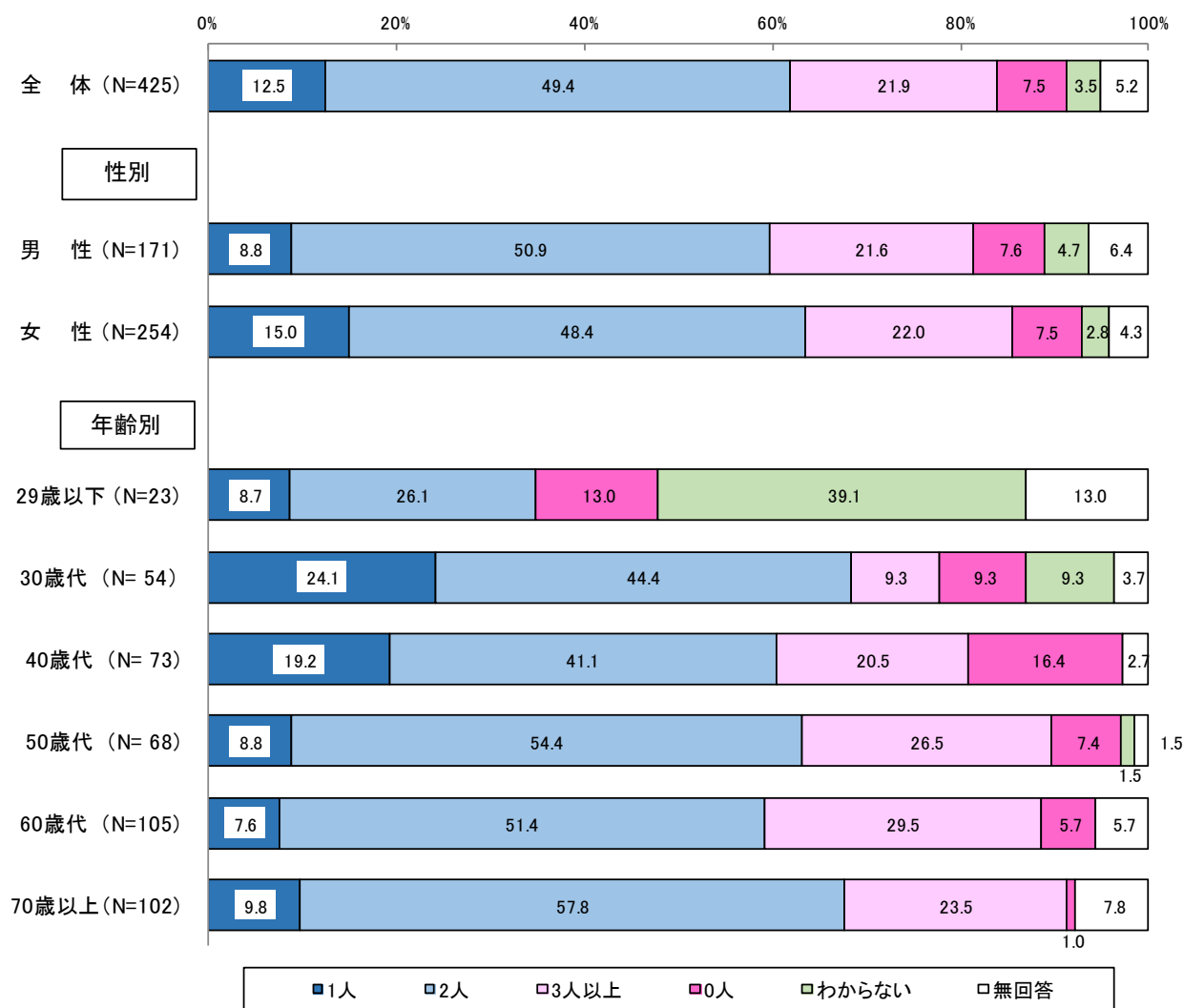
② 実際の子どもの数

実際の子どもの数については、「1人」が12.5%、「2人」が49.4%、「3人以上」が21.9%となっている一方、「0人」が7.5%などとなっている。

男女別にみると、男女とも「2人」が約半数となっている。

年代別にみると、「30～40歳代」で「1人」が約2割と他の年代に比べて多くなっている。

図表 4-1② 実際の子どもの数＜単数回答＞



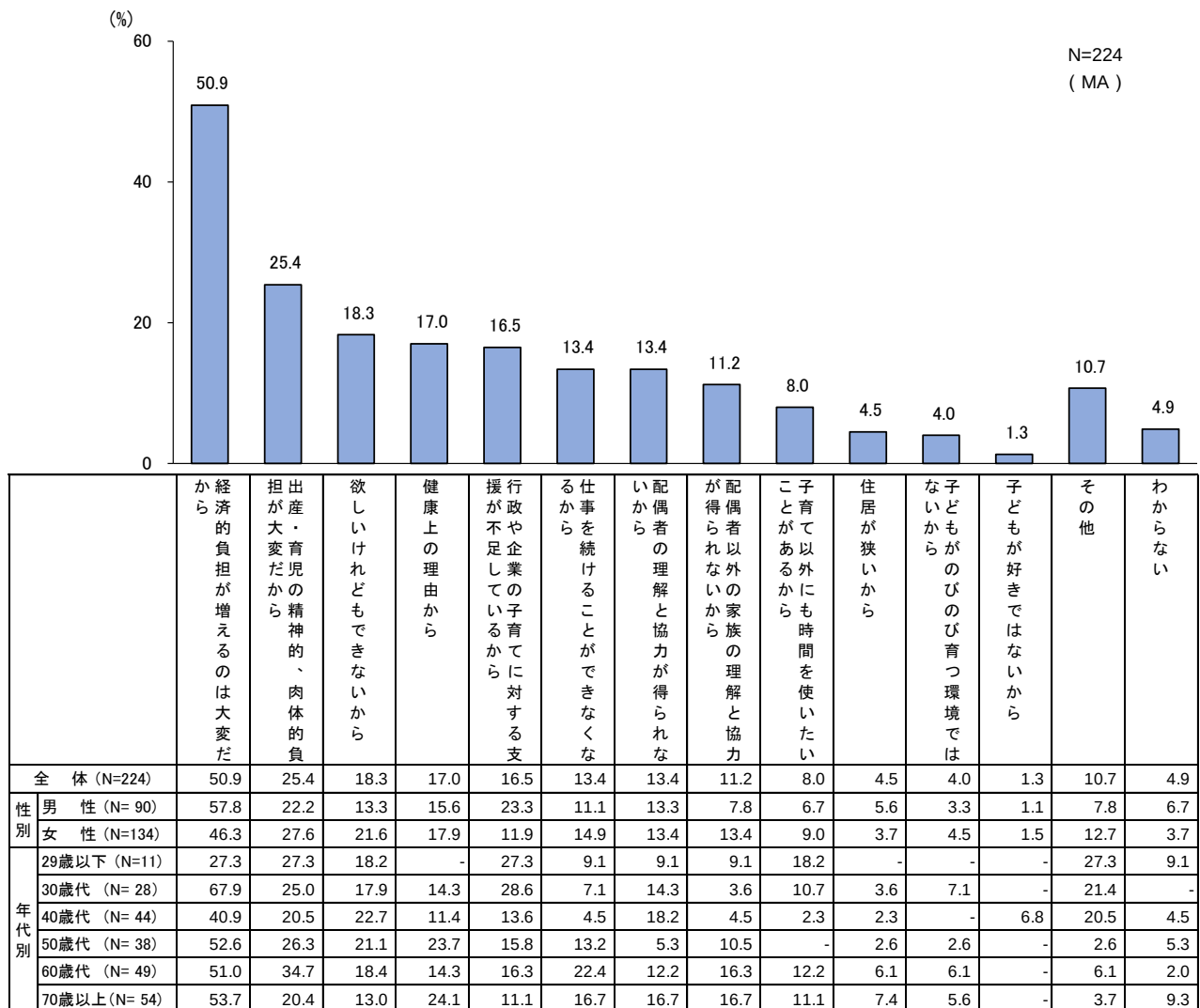
(2) 理想の子どもの数より少ない理由

理想より実際に持つつもり（持った）子どもの数が理想より少ない理由についてきいたところ、「経済的負担が増えるのは大変だから」が50.9%と最も多く、次いで「出産・育児の精神的、肉体的負担が大変だから」が25.4%、「欲しいけれどもできないから」が18.3%などとなっている。

男女別にみると、男性は「経済的負担が増えるのは大変だから」、「行政や企業の子育てに対する支援が不足しているから」が女性に比べて多く、女性は「出産・育児の精神的、肉体的負担が大変だから」、「欲しいけれどもできないから」が男性に比べて多くなっている。

年代別にみると、「30歳代」で「経済的負担が増えるのは大変だから」が67.9%と多くなっている。また、「行政や企業の子育てに対する支援が不足しているから」が「30歳代以下」で約3割と他の年代に比べて多くなっている。

図表 4-2 理想の子どもの数より少ない理由＜複数回答＞



5 高齢期、介護

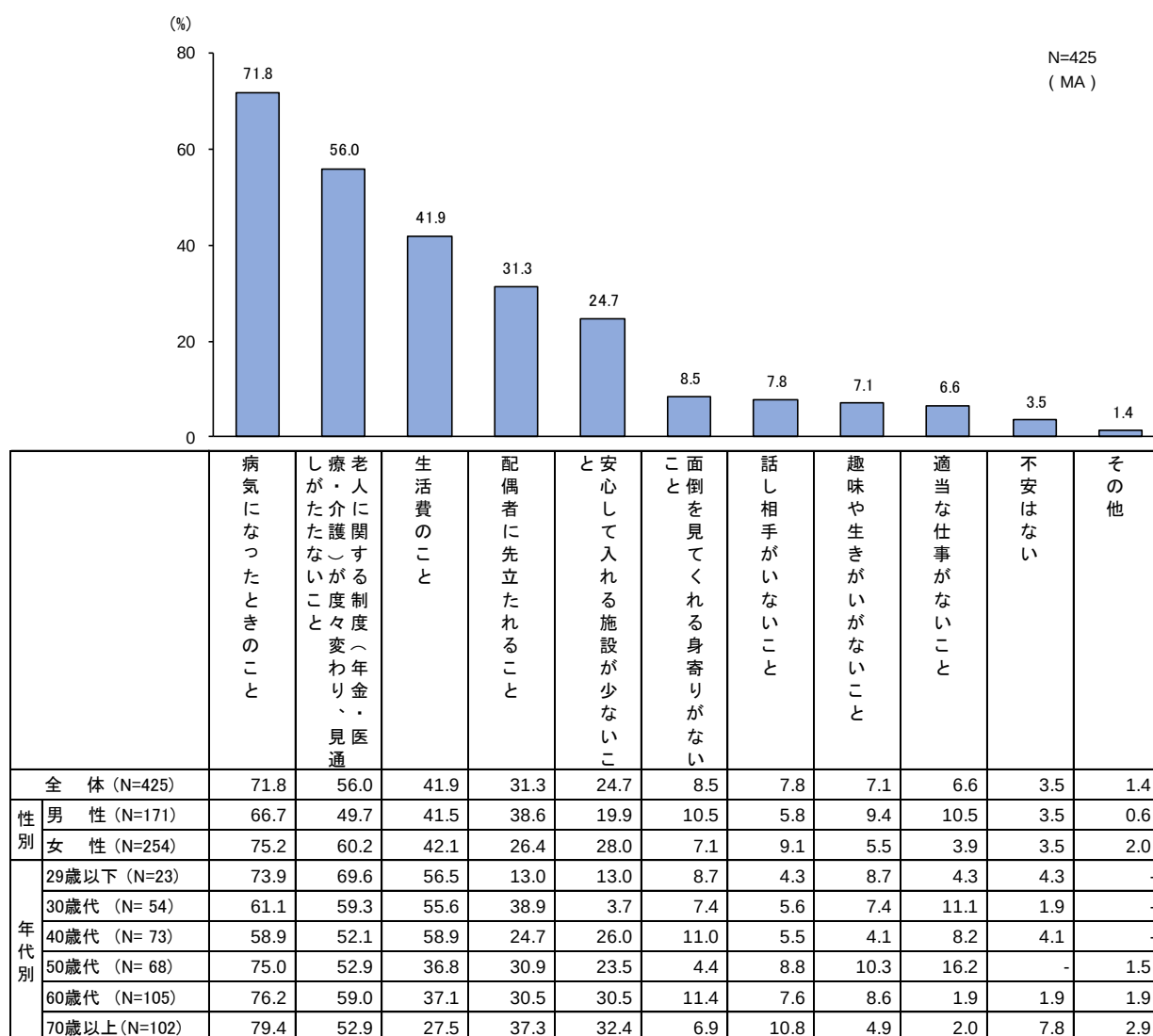
(1) 老後について不安に思うこと

自分の老後について不安に思うことをきいたところ、「病気になったときのこと」が71.8%と最も多く、次いで「老人に関する制度(年金・医療・介護)が度々変わり、見通しがたたないこと」が56.0%、「生活費のこと」が41.9%、「配偶者に先立たれること」が31.3%の順となっている。

男女別にみると、男性は「配偶者に先立たれること」が女性に比べて多く、女性は「病気になったときのこと」、「老人に関する制度(年金・医療・介護)が度々変わり、見通しがたたないこと」、「安心して入れる施設が少ないこと」が男性に比べて多くなっている。

年代別にみると、年代が低いほど「生活費のこと」が多く、年代が高いほど「安心して入れる施設が少ないこと」が多い傾向にある。

図表 5-1 老後について不安に思うこと＜複数回答＞



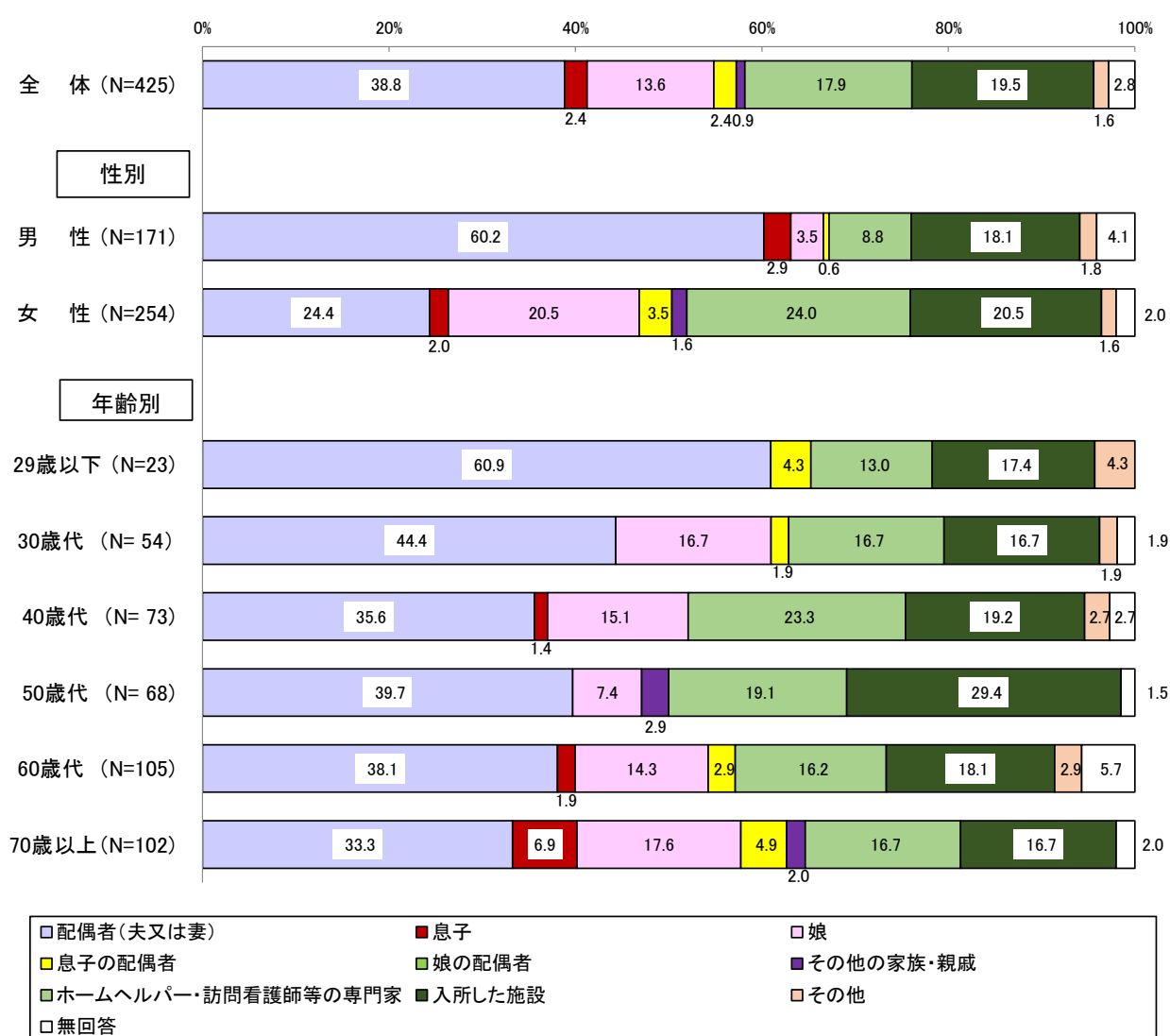
(2) 望む介護者

介護を受けるとした場合、主に誰に介護してもらいたいのかきいたところ、「配偶者（夫又は妻）」が38.8%、「息子」が2.4%、「娘」が13.6%、「息子の配偶者」が2.4%、「その他の家族・親戚」が0.9%と家族に介護してもらいたいとする人が58.1%となっている。一方、「ホームヘルパー・訪問看護師等の専門家」が17.9%、「入所した施設」が19.5%などとなっている。

男女別にみると、「配偶者（夫又は妻）」が男性60.2%と多い一方、女性は24.4%となっている。一方、女性は「娘」が20.5%、「ホームヘルパー・訪問看護師等の専門家」が24.0%などとなっている。

年代別にみると、年代が低いほど「配偶者（夫又は妻）」が多い傾向にある。また、「50歳代」で「入所した施設」が29.4%と多い。

図表 5-2 望む介護者＜単数回答＞



※「娘の配偶者」と回答した人はいなかった

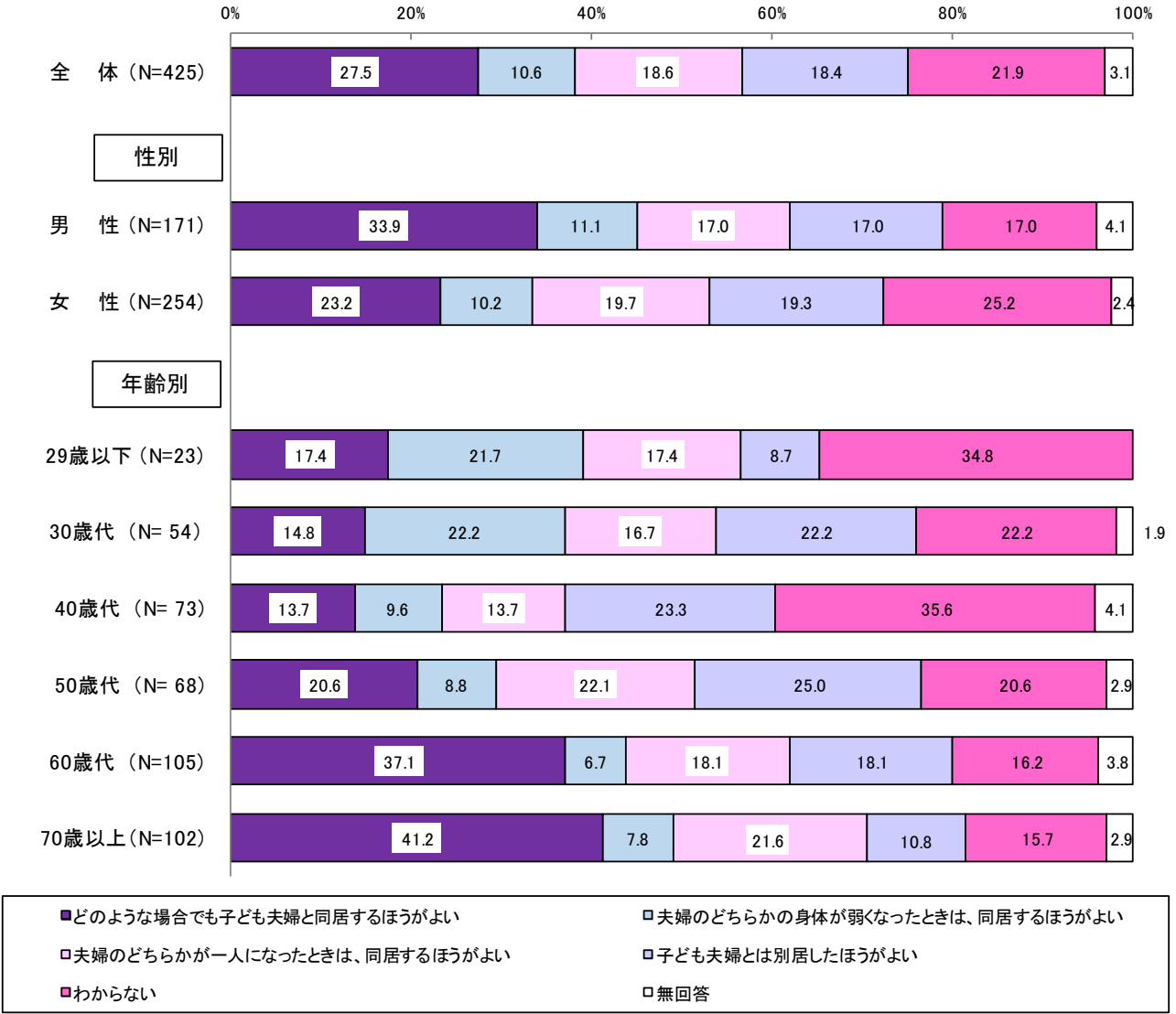
(3) 老後における同居の考え方

親の老後は子ども夫婦と同居したほうがよいかどうかについてきいたところ、「どのような場合でも子ども夫婦と同居するほうがよい」が 27.5%、「夫婦のどちらかの身体が弱くなったときは、同居するほうがよい」が 10.6%、「夫婦のどちらかが一人になったときは、同居するほうがよい」が 18.6%、「子ども夫婦とは別居したほうがよい」が 18.4%、「わからない」が 21.9%となっている。

男女別にみると、男性は「どのような場合でも子ども夫婦と同居するほうがよい」が 33.9%と女性に比べて多くなっている。

年代別にみると、年代が高いほど「どのような場合でも子ども夫婦と同居するほうがよい」が多く、年代が低いほど「夫婦のどちらかの身体が弱くなったときは、同居するほうがよい」が多い傾向にある。

図表 5-3 老後における同居の考え方＜複数回答＞



6 社会参加・地域

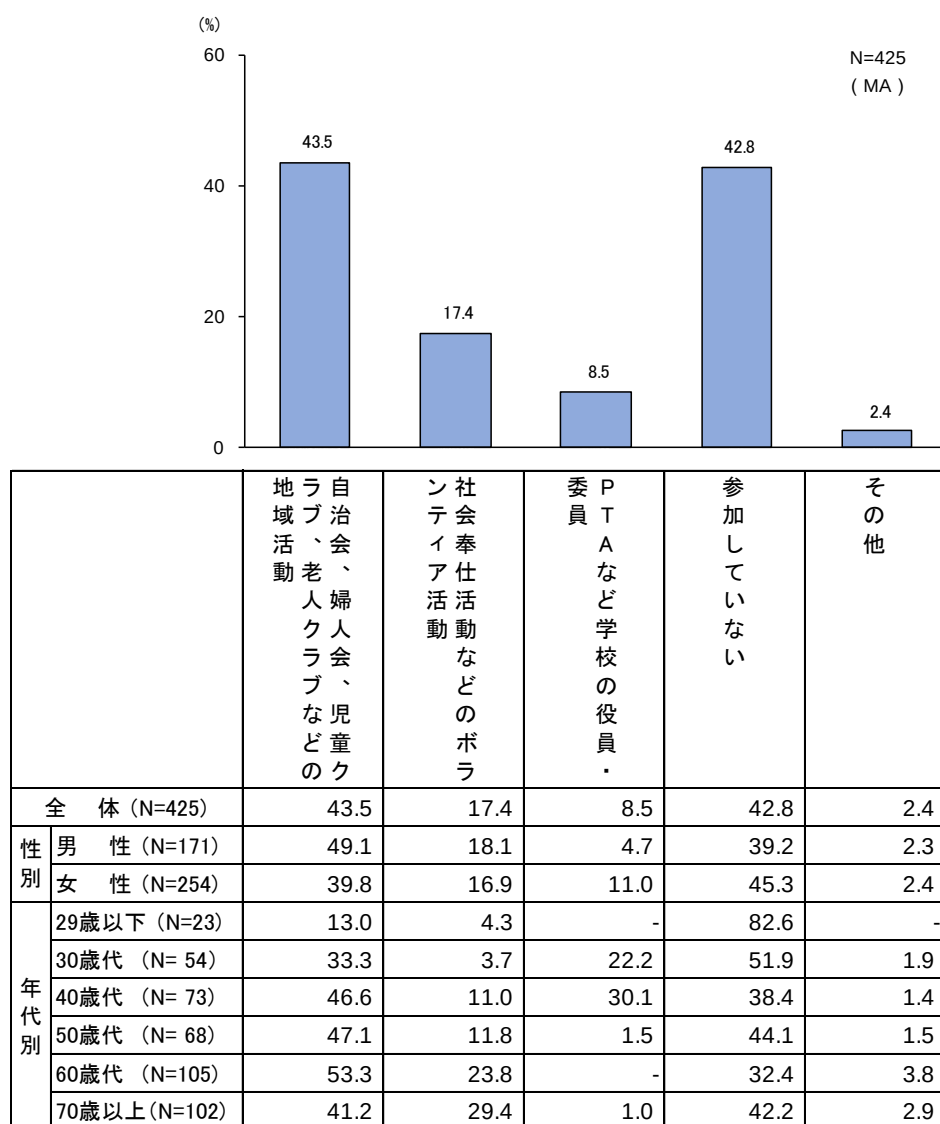
(1) 仕事以外の活動の参加状況

仕事以外の活動の参加状況についてきいたところ、「自治会、婦人会、児童クラブ、老人クラブなどの地域活動」が43.5%と最も多く、「社会奉仕活動などのボランティア活動」が17.4%、「PTA など学校の役員・委員」が8.5%となっている一方、「参加していない」が42.8%となっている。

男女別にみると、男性は「自治会、婦人会、児童クラブ、老人クラブなどの地域活動」が49.1%と女性に比べて多く、女性は「PTA など学校の役員・委員」が11.0%と男性に比べて多くなっている。

年代別にみると、年代が高いほど「自治会、婦人会、児童クラブ、老人クラブなどの地域活動」、「社会奉仕活動などのボランティア活動」が多い傾向にある。一方、年代が低くなるにつれ「参加していない」が多い傾向にあり、「29歳以下」は82.6%となっている。

図表 6-1 仕事以外の活動の参加状況＜複数回答＞



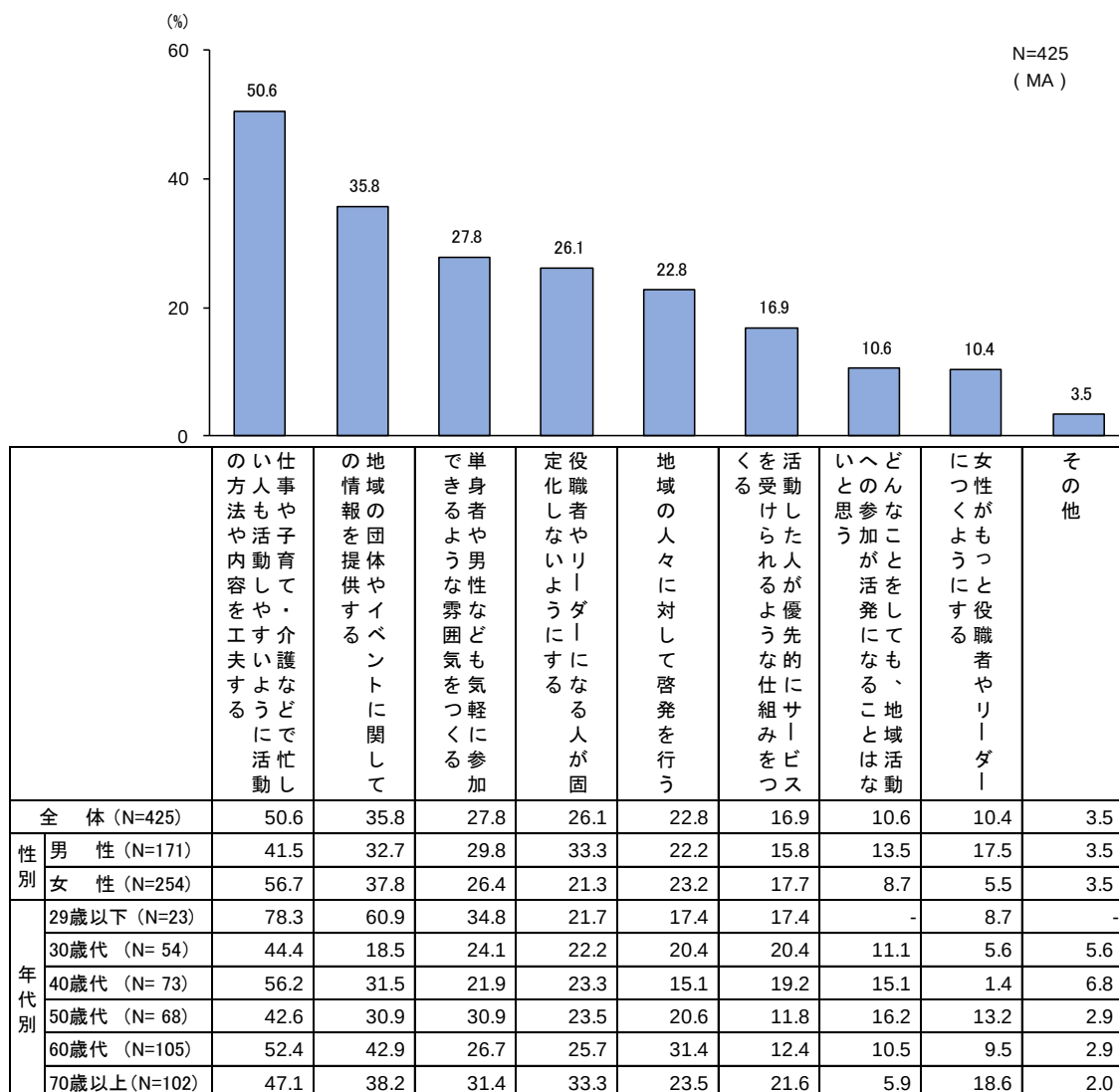
(2) 地域活動に参加しやすくするために必要なこと

地域活動に参加しやすくするために必要なことについてきいたところ、「仕事や子育て・介護などで忙しい人も活動しやすいように活動の方法や内容を工夫する」が50.6%と最も多く、次いで「地域の団体やイベントに関しての情報を提供する」が35.8%、「単身者や男性なども気軽に参加できるような雰囲気をつくる」が27.8%、「役職者やリーダーになる人が固定化しないようにする」が26.1%の順となっている。

男女別にみると、男性は「役職者やリーダーになる人が固定化しないようにする」、「女性がもっと役職者やリーダーにつくようにする」が女性に比べて多く、女性は「仕事や子育て・介護などで忙しい人も活動しやすいように活動の方法や内容を工夫する」が男性に比べて多くなっている。

年代別にみると、「29歳以下」で「仕事や子育て・介護などで忙しい人も活動しやすいように活動の方法や内容を工夫する」が78.3%、「地域の団体やイベントに関しての情報を提供する」が60.9%と多くなっている。また、「70歳以上」で「役職者やリーダーになる人が固定化しないようにする」が他の年代に比べて多くなっている。

図表 6-2 地域活動に参加しやすくするために必要なこと＜複数回答＞



7 政策・方針決定

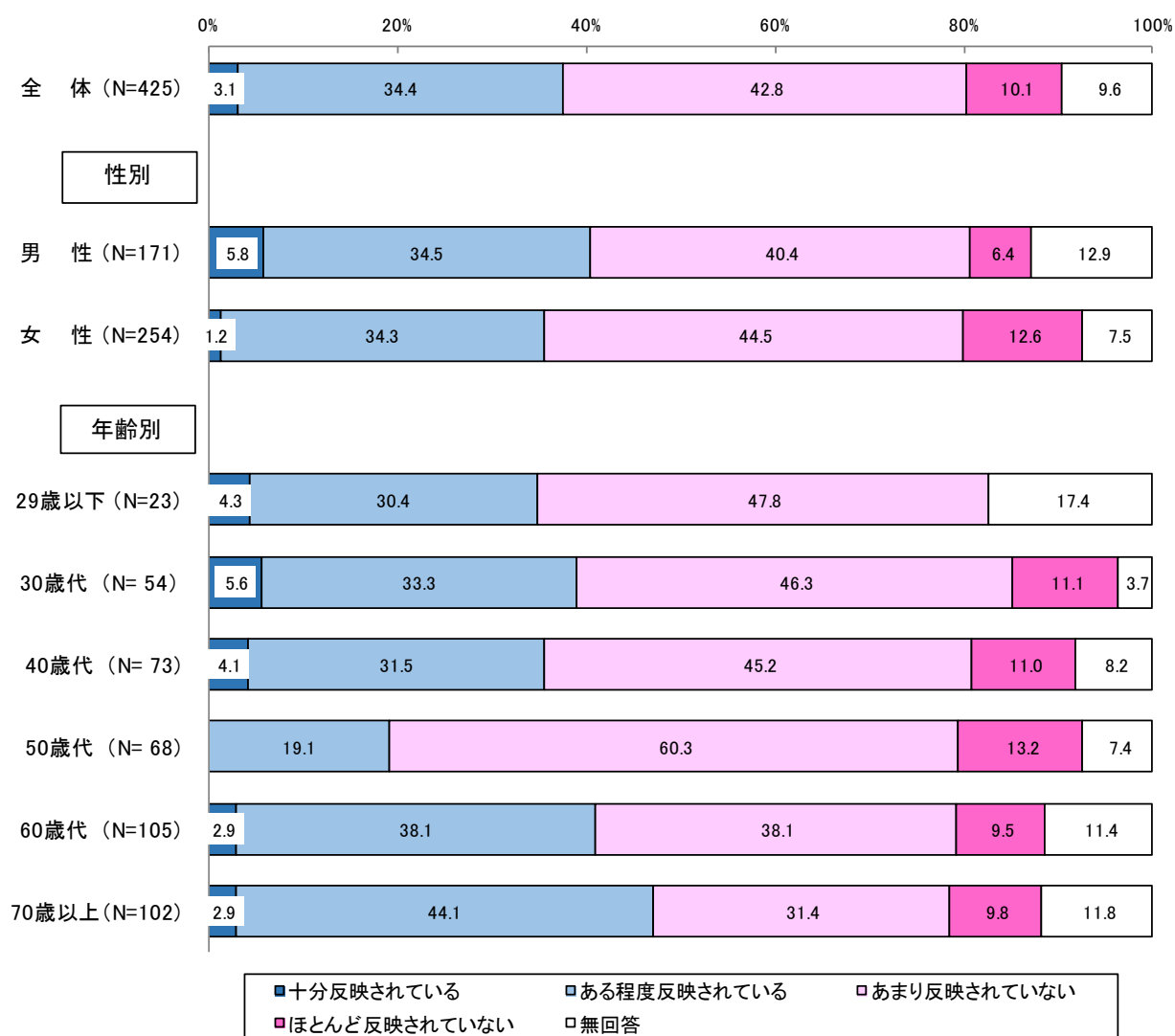
(1) 女性の意見が政治や行政に反映されていると思うか

女性の意見が政治や行政に反映されていると思うかきいたところ、「十分反映されている」が3.1%、「ある程度反映されている」が34.4%、「あまり反映されていない」が42.8%、「ほとんど反映されていない」が10.1%となっている。

男女別にみると、女性は「あまり反映されていない」が44.5%、「ほとんど反映されていない」が12.6%と男性に比べて多くなっている。

年代別にみると、「50歳代」で「あまり反映されていない」が60.3%、「ほとんど反映されていない」が13.2%と反映されていないとする人が7割超と多くなっている。

図表 7-1 女性の意見が政治や行政に反映されていると思うか＜単数回答＞



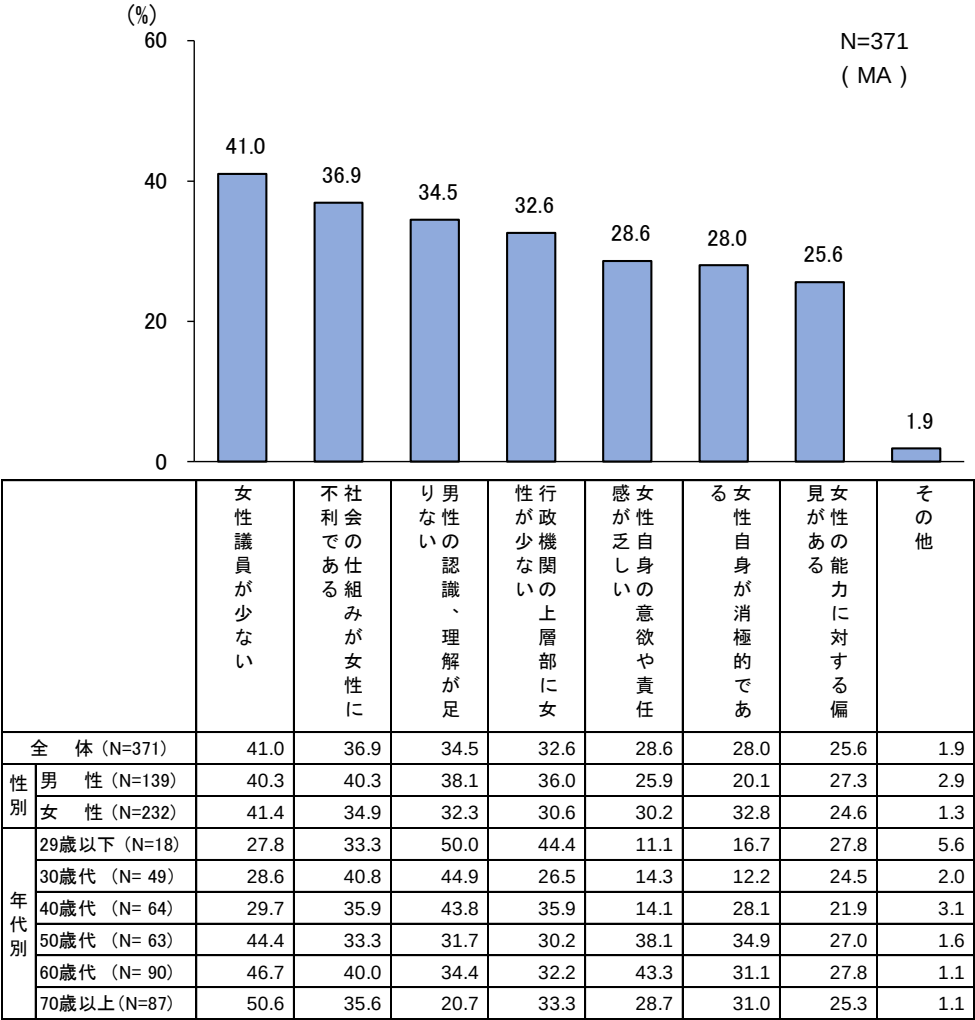
(2) 女性の意見が政治や行政に十分反映されていないと思う理由

女性の意見が政治や行政に十分反映されていないとした 371 人に、その理由をきいたところ、「女性議員が少ない」が 41.0%と最も多く、次いで「社会の仕組みが女性に不利である」が 36.9%、「男性の認識、理解が足りない」が 34.5%、「行政機関の上層部に女性が少ない」が 32.6%の順となっている。

男女別にみると、男性は「社会の仕組みが女性に不利である」、「男性の認識、理解が足りない」が女性に比べて多くなっている。一方、女性は「女性自身の意欲や責任感が乏しい」、「女性自身が消極的である」が男性に比べて多くなっており、女性自身の問題であるとする人が多い。

年代別にみると、年代が低いほど「女性議員が少ない」が多い一方、年代が低いほど「男性の認識、理解が足りない」が多い傾向にある。

図表 7-2 女性の意見が政治や行政に十分反映されていないと思う理由＜複数回答＞



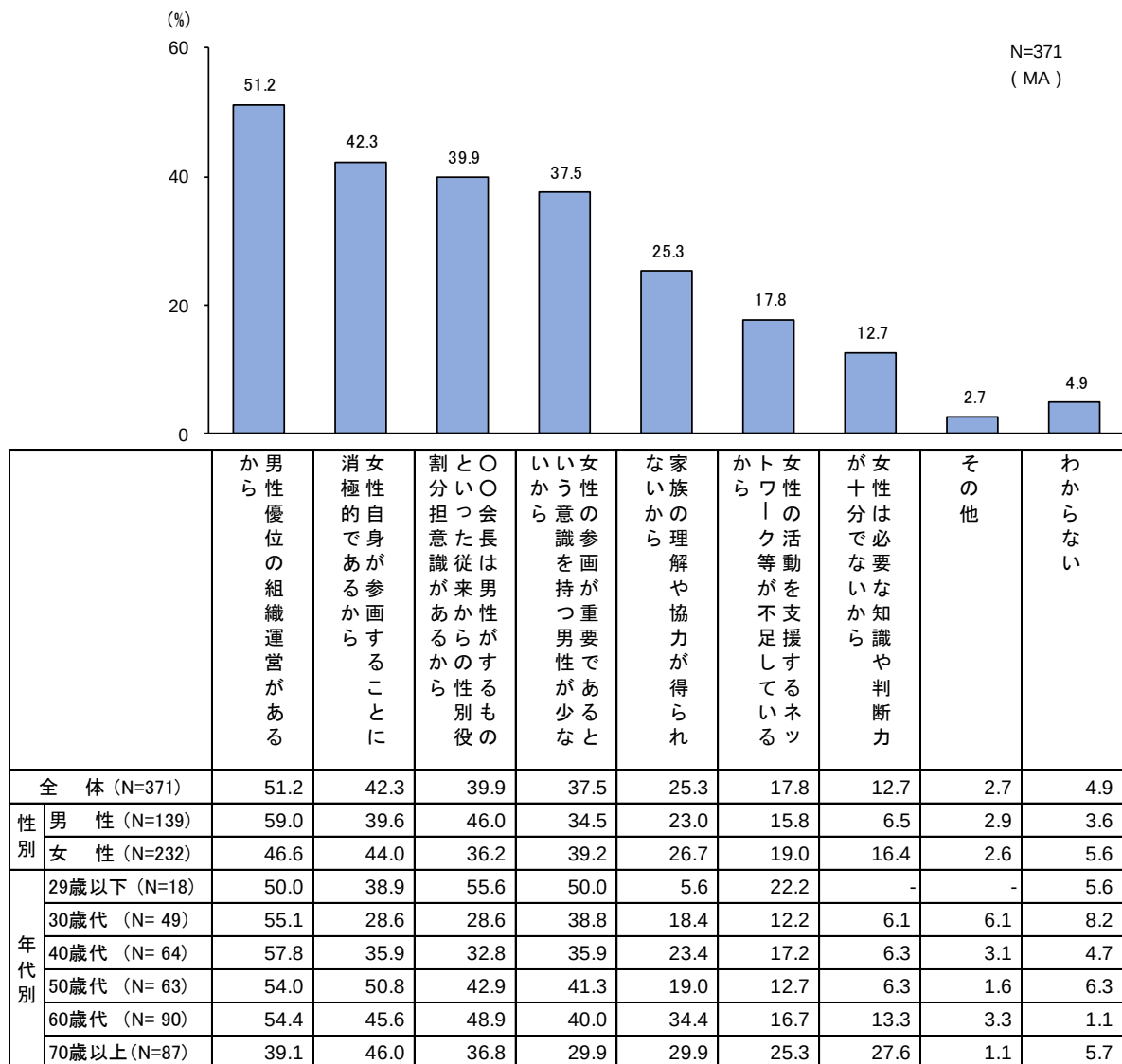
(3) 政策・方針決定の場に女性の参画が少ない理由

政策・方針決定の場に女性の参画が少ない理由についてきいたところ、「男性優位の組織運営があるから」が51.2%と最も多く、次いで「女性自身が参画することに消極的であるから」が42.3%、「〇〇会長は男性がするものといった従来からの性別役割分担意識があるから」が39.9%、「女性の参画が重要であるという意識を持つ男性が少ないから」が37.5%の順となっている。

男女別にみると、男性は「男性優位の組織運営があるから」、「〇〇会長は男性がするものといった従来からの性別役割分担意識があるから」が女性に比べて多くなっている。一方、女性は「女性自身が参画することに消極的であるから」、「女性は必要な知識や判断力が十分でないから」が男性に比べて多くなっている。

年代別にみると、「29歳以下」で「〇〇会長は男性がするものといった従来からの性別役割分担意識があるから」、「70歳以上」で「女性自身が参画することに消極的であるから」が最も多く、その他の年代は「男性優位の組織運営があるから」が最も多くなっている。

図表 7-3 政策・方針決定の場に女性の参画が少ない理由＜複数回答＞



8 DV

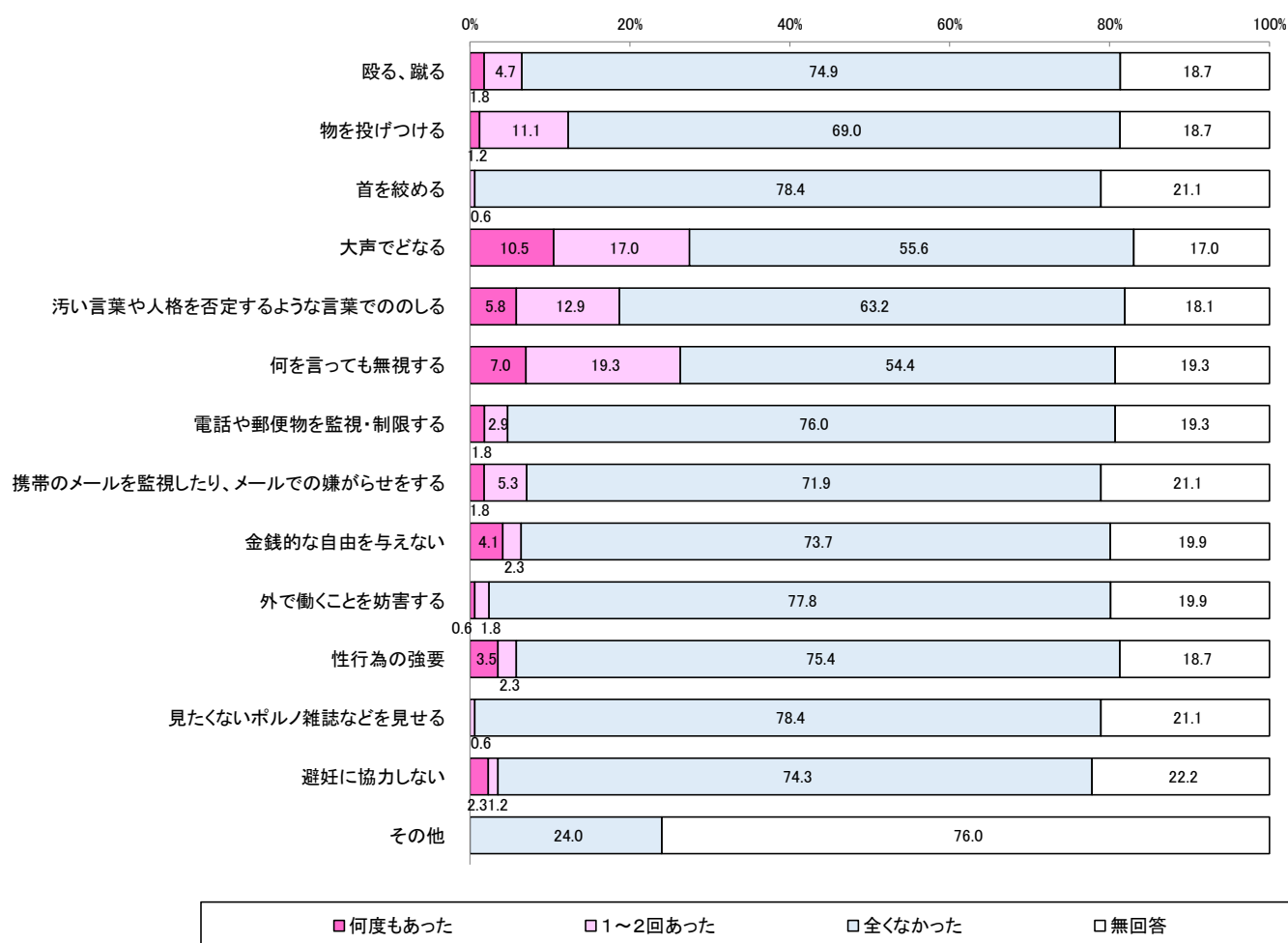
(1) DVを受けた経験

① 男性

今までに配偶者（夫又は妻）や恋人から暴力等を受けたことがあるか聞いたところ、男性は「大声でどなる」が「何度もあった」が10.5%、「1～2回あった」が17.0%と多く、「何を言っても無視する」も「何度もあった」が7.0%、「1～2回あった」が19.3%と多くなっている。

図表 8-1① DVを受けた経験【男性】＜単数回答＞

N=171

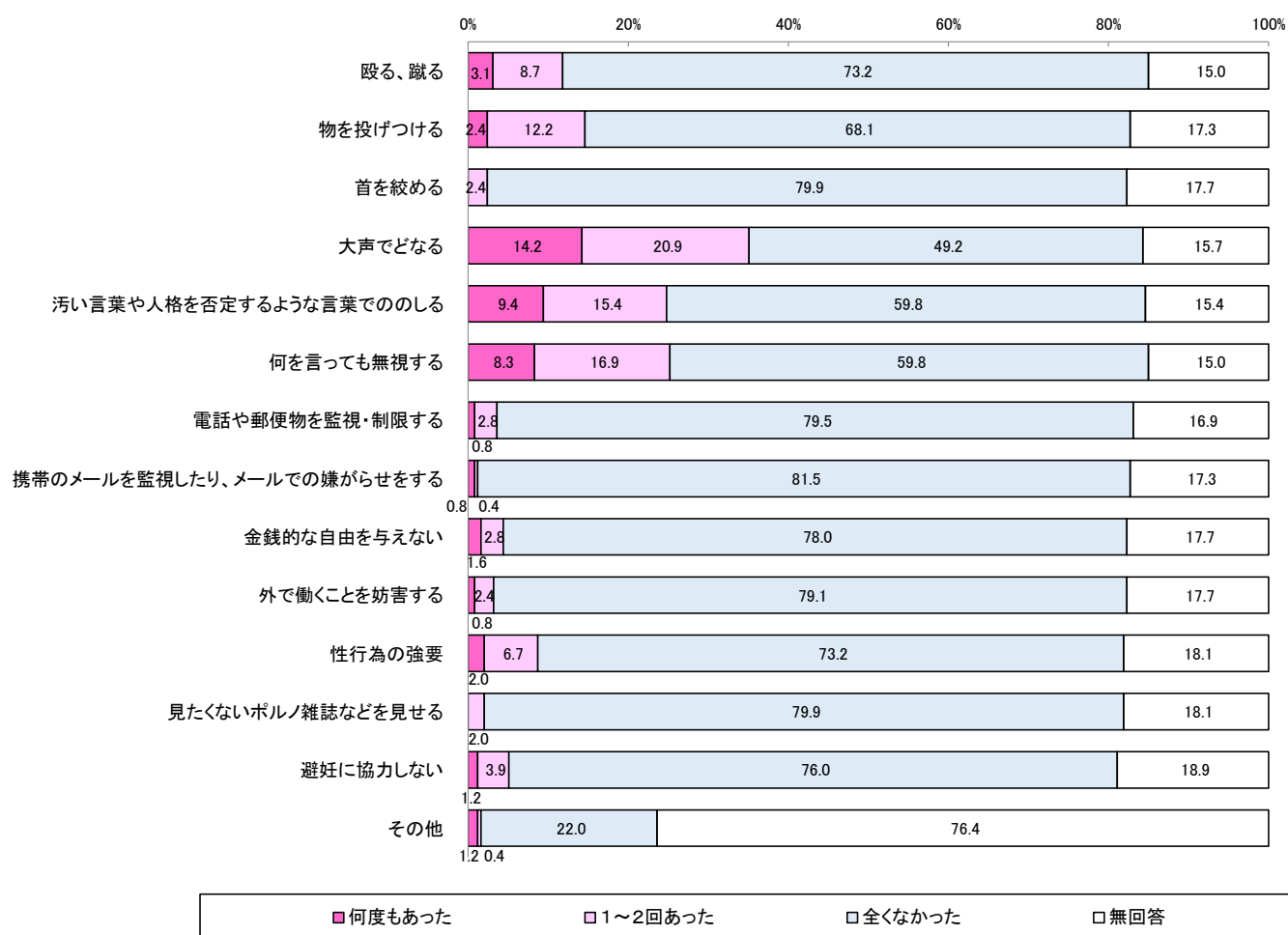


② 女性

女性においては、「大声でどなる」が「何度もあった」が14.2%、「1～2回あった」が20.9%、「何を言っても無視する」が「何度もあった」が8.3%、「1～2回あった」が16.9%と多く、「汚い言葉や人格を否定するような言葉でののしる」も「何度もあった」が9.4%、「1～2回あった」が15.4%と多くなっている。

図表 8-1② DVを受けた経験【女性】＜単数回答＞

N=254



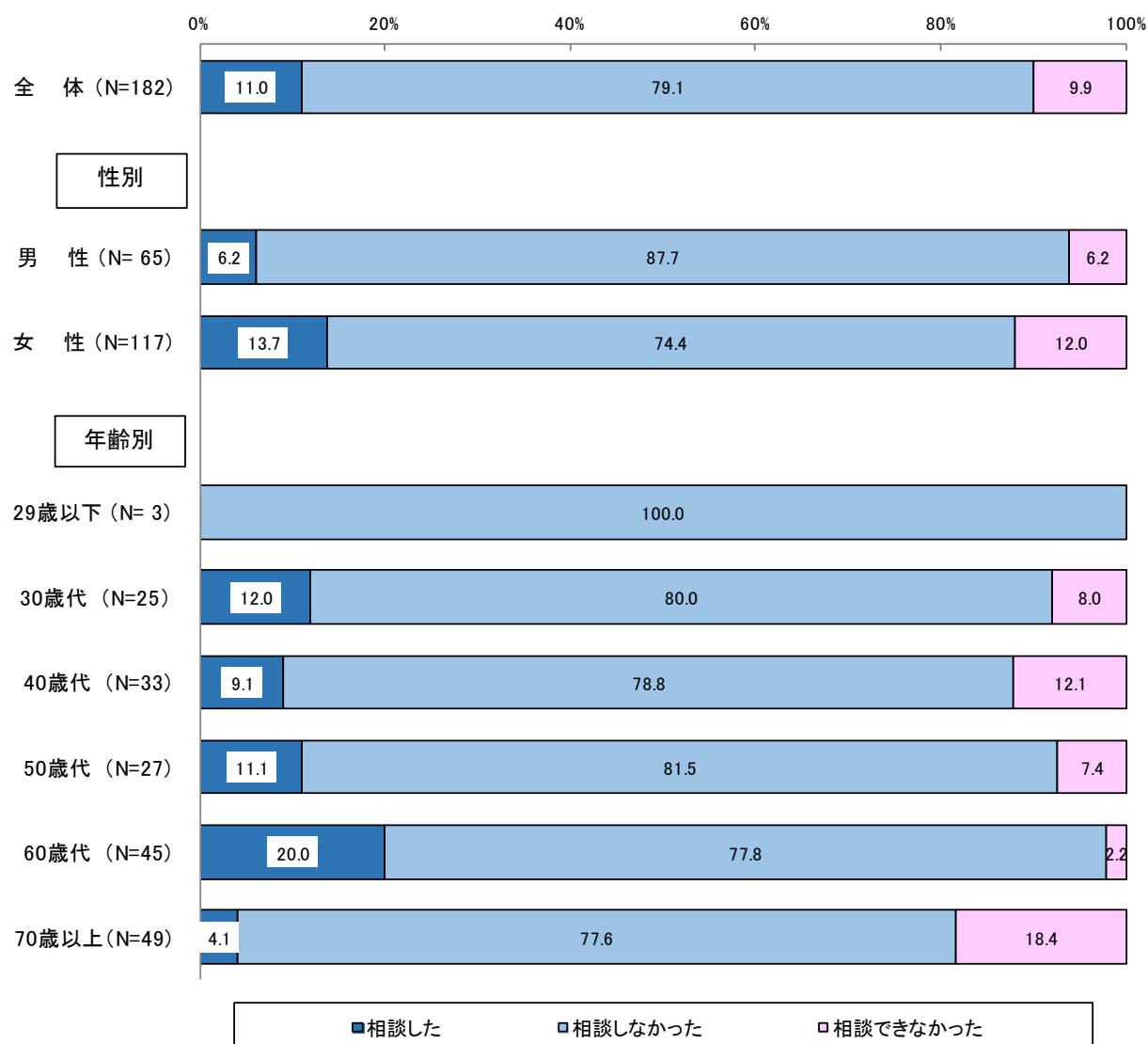
(2) DVに関する相談

DVを受けたことがあるとした182人に、DVに関して相談したかどうかきいたところ、「相談した」が11.0%、「相談しなかった」が79.1%、「相談できなかった」が9.9%となっている。

男女別にみると、女性は「相談した」が13.7%と男性に比べて多い一方、「相談できなかった」も12.0%と多くなっている。

年代別にみると、「60歳代」で「相談した」が20.0%、「70歳以上」で「相談できなかった」が18.4%と他の年代に比べて多くなっている。

図表 8-2 DVに関する相談＜単数回答＞



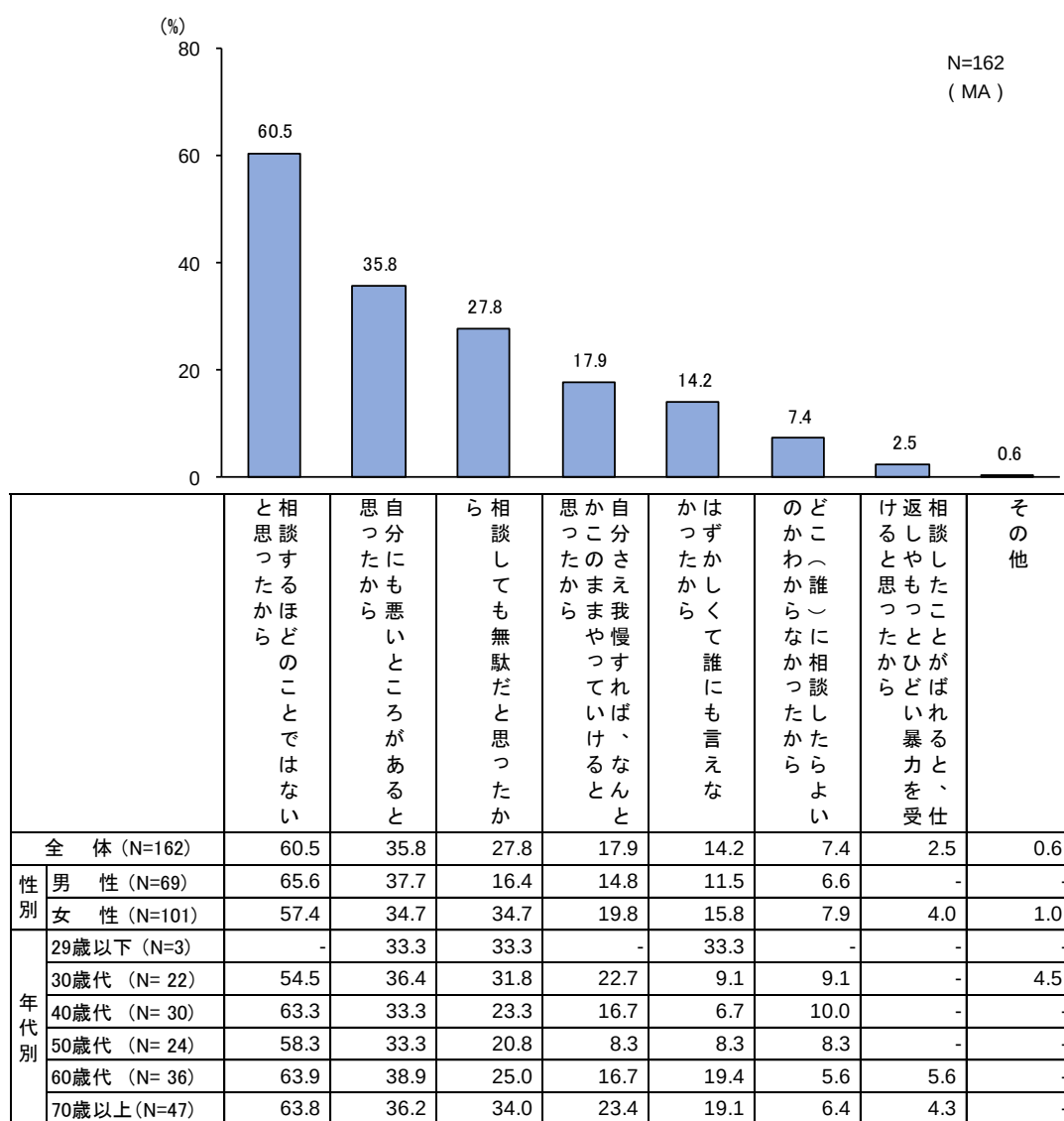
(3) 誰にも相談しなかった理由

相談しなかった、できなかったとした 162 人に、その理由についてきいたところ、「相談するほどのことではないと思ったから」が 60.5%と最も多く、次いで「自分にも悪いところがあると思ったから」が 35.8%、「相談しても無駄だと思ったから」が 27.8%などとなっている。

男女別にみると、男性は「相談するほどのことではないと思ったから」が 65.6%と女性に比べて多く、女性は「相談しても無駄だと思ったから」が 34.7%と男性に比べて多くなっている。

年代別にみると、「60 歳代以上」で「はずかしくて誰にも言えなかったから」が約 2 割と、他の年代に比べて多くなっている。

図表 8-3 誰にも相談しなかった理由＜複数回答＞



9 男女共同参画社会

(1) 男女平等に対する考え

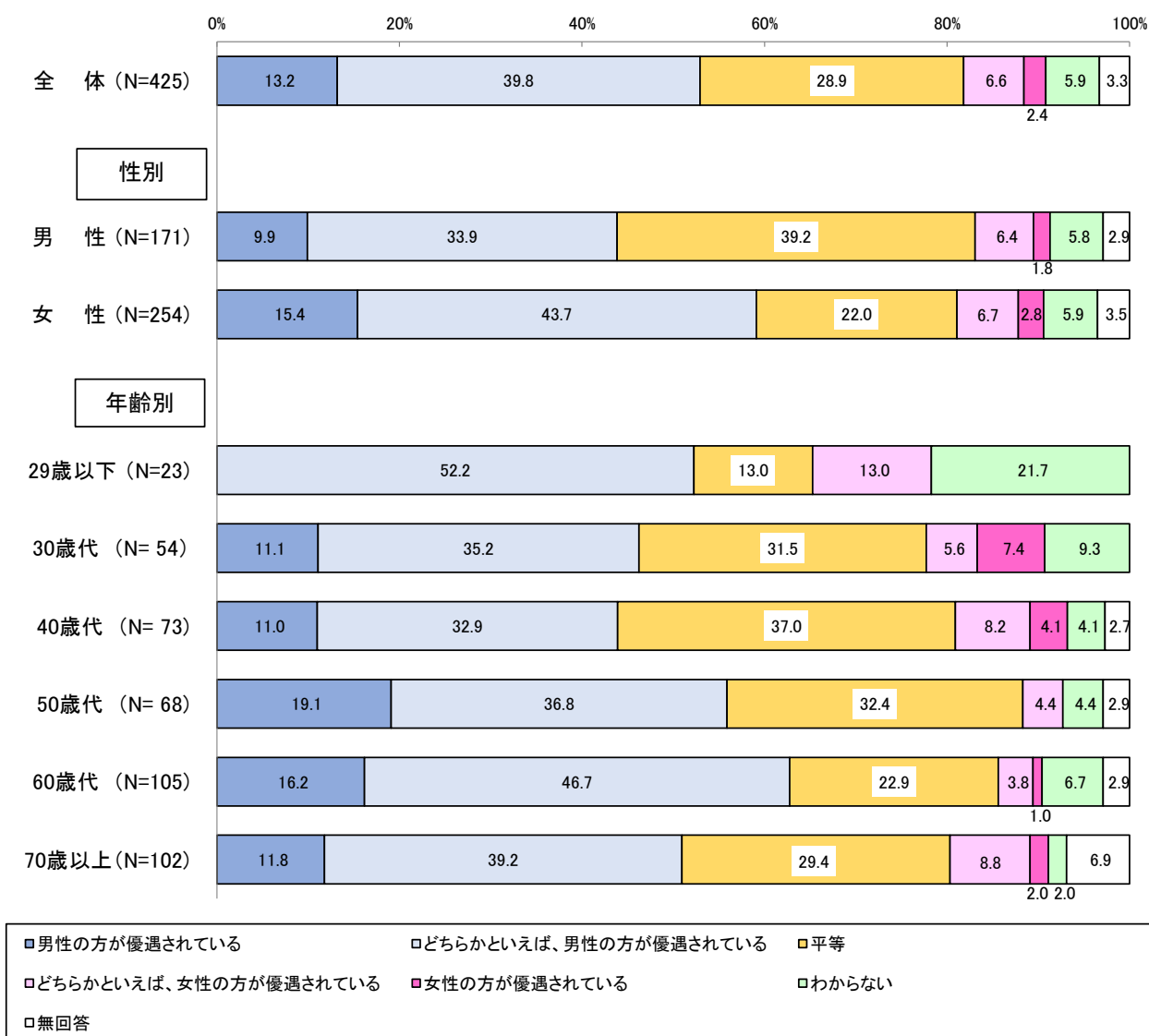
① 家庭生活

各分野における男女平等についてどのように思うかきいた結果についてみていく。家庭生活においては、「男性の方が優遇されている」が13.2%、「どちらかといえば、男性の方が優遇されている」が39.8%と男性優遇とする人が53.0%である一方、「どちらかといえば、女性の方が優遇されている」が6.6%、「女性の方が優遇されている」が2.4%と女性優遇とする人が9.0%となっている。また、「平等」が28.9%、「わからない」が5.9%となっている。

男女別にみると、女性で男性優遇とする人が59.1%と男性に比べて多くなっている一方、男性は「平等」が39.2%と多くなっている。

年代別にみると、「60歳代」で男性優遇とする人が62.9%と多くなっている。

図表 9-1① 男女平等に対する考え【家庭生活】＜単数回答＞



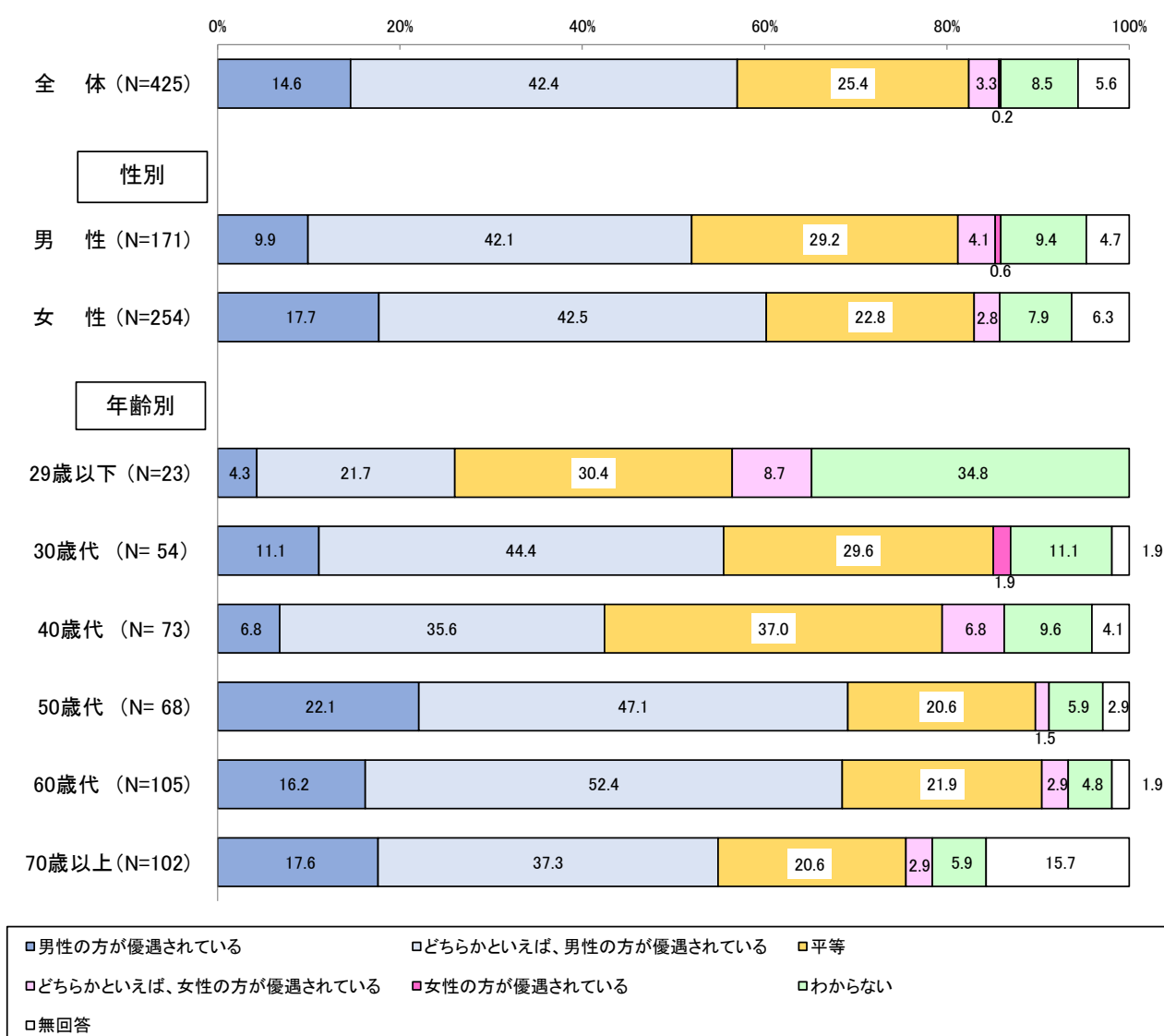
② 地域生活の場

地域生活の場においては、「男性の方が優遇されている」が14.6%、「どちらかといえば、男性の方が優遇されている」が42.4%と男性優遇とする人が57.0%である一方、「どちらかといえば、女性の方が優遇されている」が3.3%、「女性の方が優遇されている」が0.2%と女性優遇が3.5%となっている。また、「平等」が25.4%、「わからない」が8.5%となっている。

男女別にみると、女性で男性優遇とする人が60.2%と男性に比べて多くなっている。

年代別にみると、「50～60歳代」で男性優遇とする人が約7割と多くなっている。

図表 9-1② 男女平等に対する考え【地域生活の場】＜単数回答＞



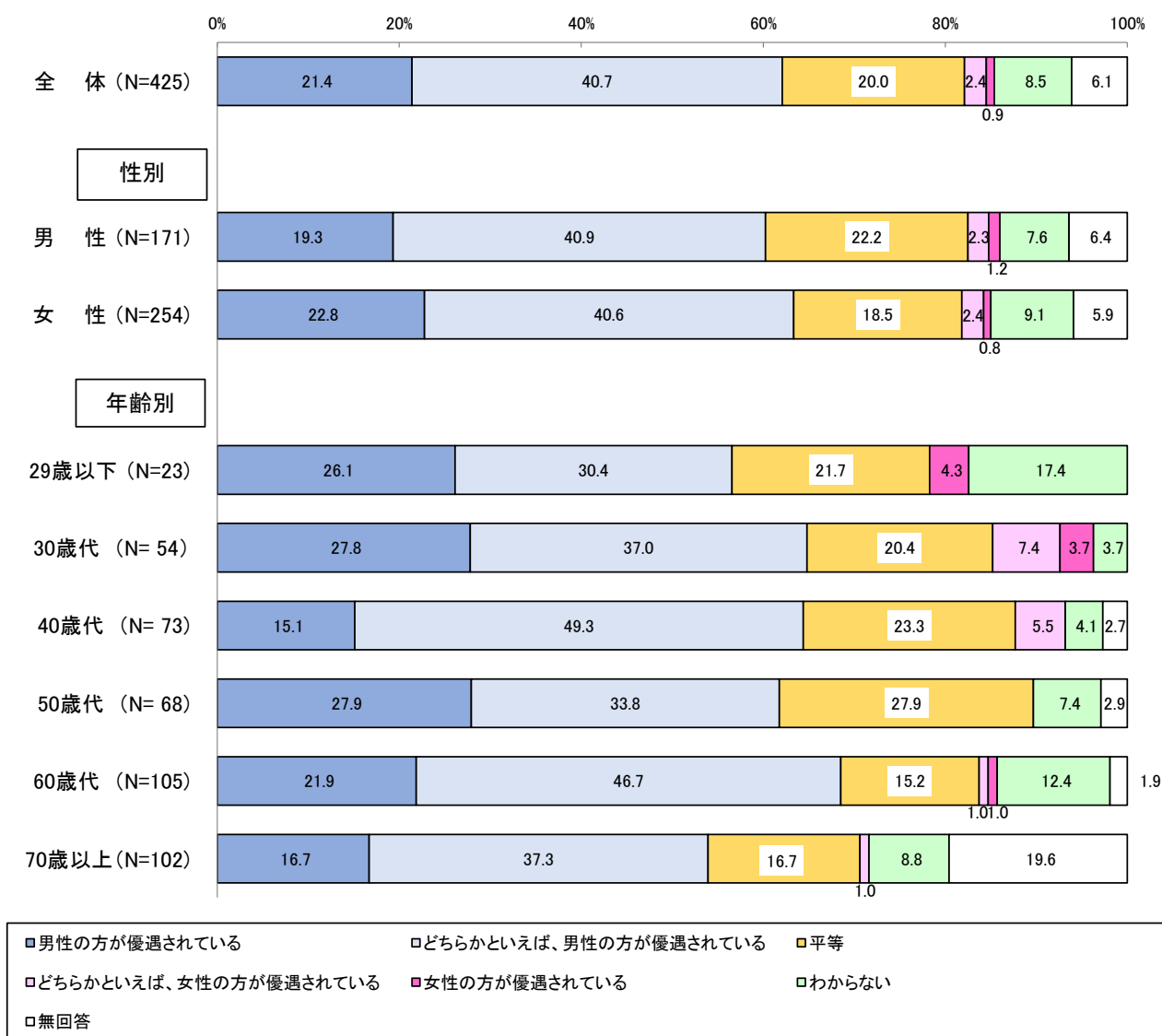
③ 職場

職場においては、「男性の方が優遇されている」が21.4%、「どちらかといえば、男性の方が優遇されている」が40.7%と男性優遇とする人が62.1%である一方、「どちらかといえば、女性の方が優遇されている」が2.4%、「女性の方が優遇されている」が0.9%と女性優遇とする人が3.3%となっている。また、「平等」が20.0%、「わからない」が8.5%となっている。

男女別にみると、女性で男性優遇とする人が63.4%と男性に比べて多くなっている。

年代別にみると、「60歳代」で男性優遇とする人が68.6%と多くなっている。

図表 9-1③ 男女平等に対する考え【職場】＜単数回答＞



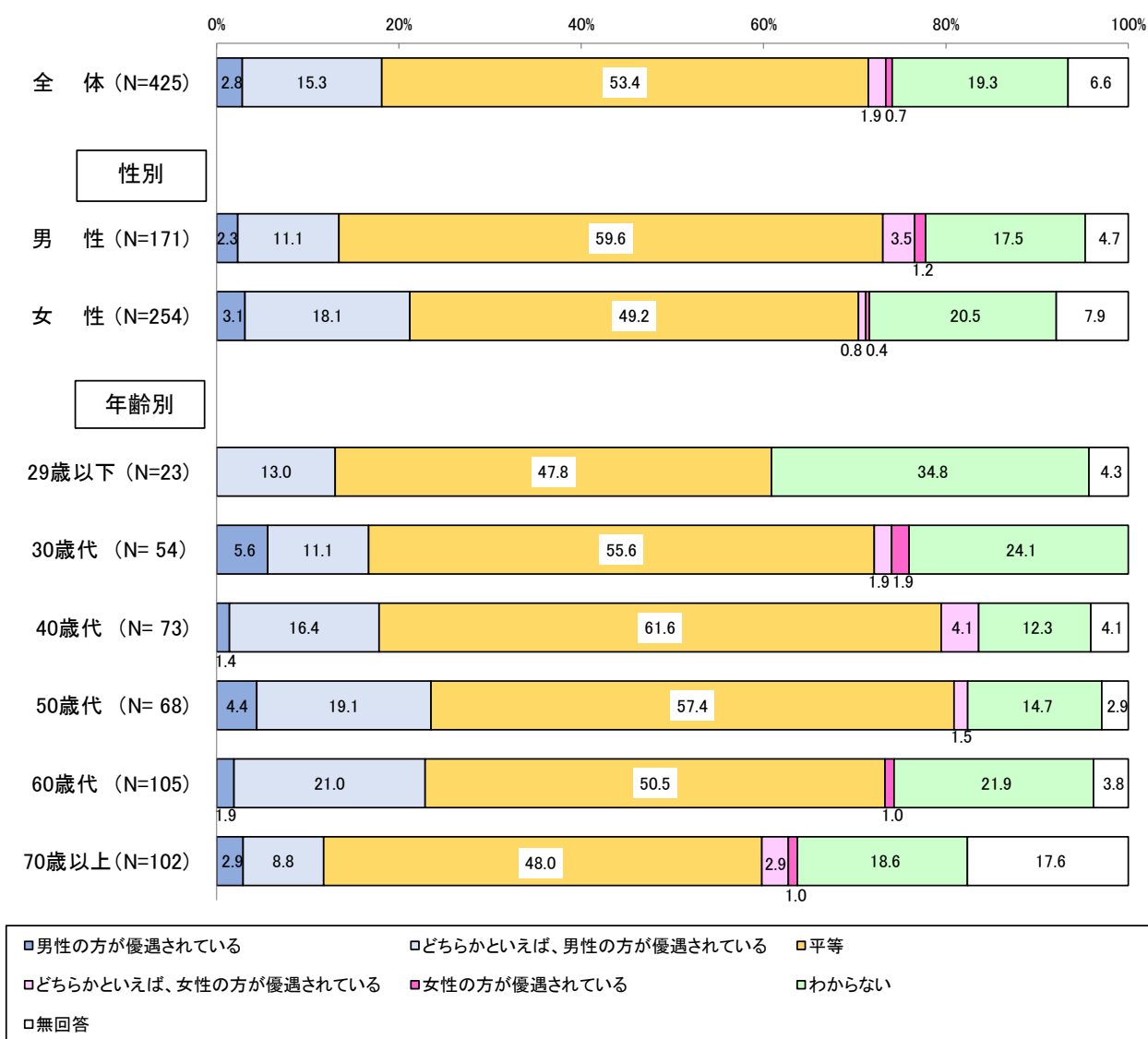
④ 学校教育の場

学校教育の場においては、「男性の方が優遇されている」が 2.8%、「どちらかといえば、男性の方が優遇されている」が 15.3%と男性優遇とする人が 18.1%である一方、「どちらかといえば、女性の方が優遇されている」が 1.9%、「女性の方が優遇されている」が 0.7%と女性優遇とする人が 2.6%となっている。また、「平等」が 53.4%、「わからない」が 19.3%となっている。

男女別にみると、女性で男性優遇とする人が 21.2%と男性に比べて多くなっている。

年代別にみると、「50～60 歳代」で男性優遇とする人が 2 割超と他の年代に比べて多くなっている。

図表 9-1① 男女平等に対する考え【学校教育の場】＜単数回答＞



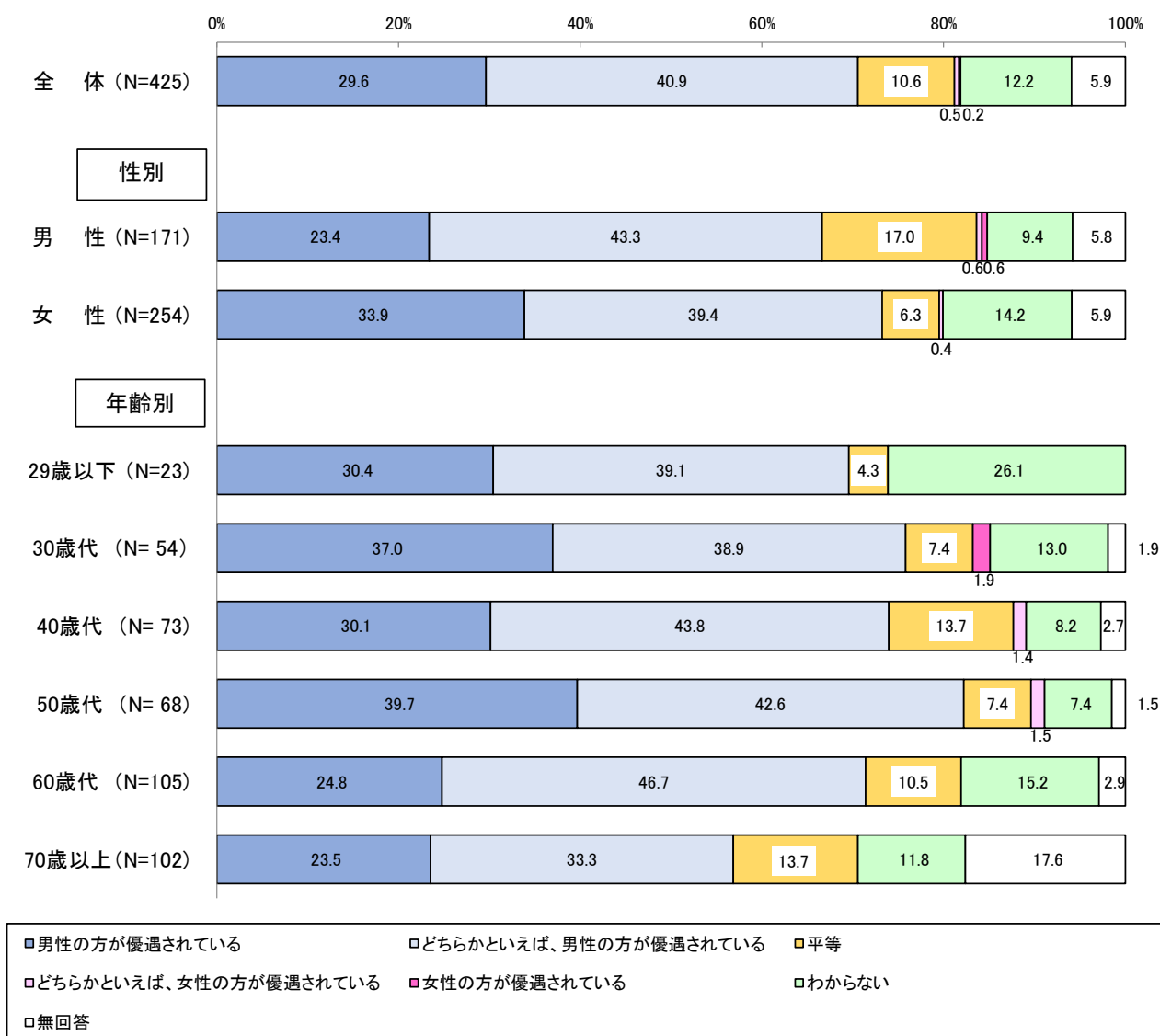
⑤ 政治の場

政治の場においては、「男性の方が優遇されている」が29.6%、「どちらかといえば、男性の方が優遇されている」が40.9%と男性優遇とする人が70.5%である一方、「どちらかといえば、女性の方が優遇されている」が0.5%、「女性の方が優遇されている」が0.2%と女性優遇とする人が0.7%となっている。また、「平等」が10.6%、「わからない」が12.2%となっている。

男女別にみると、女性で男性優遇とする人が73.3%と男性に比べて多くなっている。

年代別にみると、「50歳代」で男性優遇とする人が82.3%と多くなっている。

図表 9-1⑤ 男女平等に対する考え【政治の場】＜単数回答＞



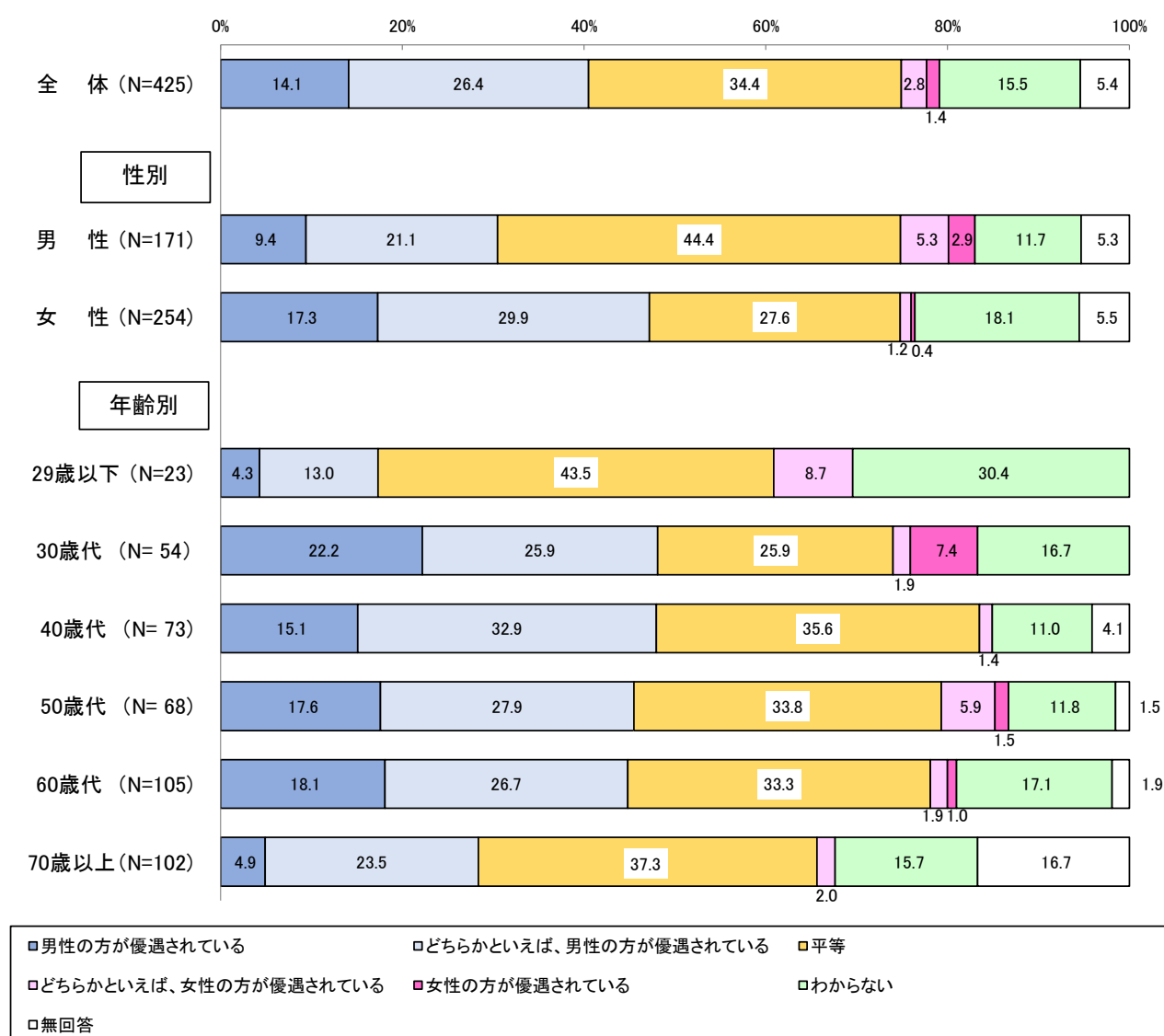
⑥ 法律や制度の上で

法律や制度の上においては、「男性の方が優遇されている」が14.1%、「どちらかといえば、男性の方が優遇されている」が26.4%と男性優遇とする人が40.5%である一方、「どちらかといえば、女性の方が優遇されている」が2.8%、「女性の方が優遇されている」が1.4%と女性優遇とする人が4.2%となっている。また、「平等」が34.4%、「わからない」が15.5%となっている。

男女別にみると、女性で男性優遇とする人が47.2%と多いのに対し、男性は「平等」が44.4%と多くなっている。

年代別にみると、「30～60 歳代」の各年代で男性優遇とする人が4割台半ば～後半と多くなっている一方、「29歳以下」は17.3%にとどまっている。

図表 9-1⑥ 男女平等に対する考え【法律や制度の上で】＜単数回答＞



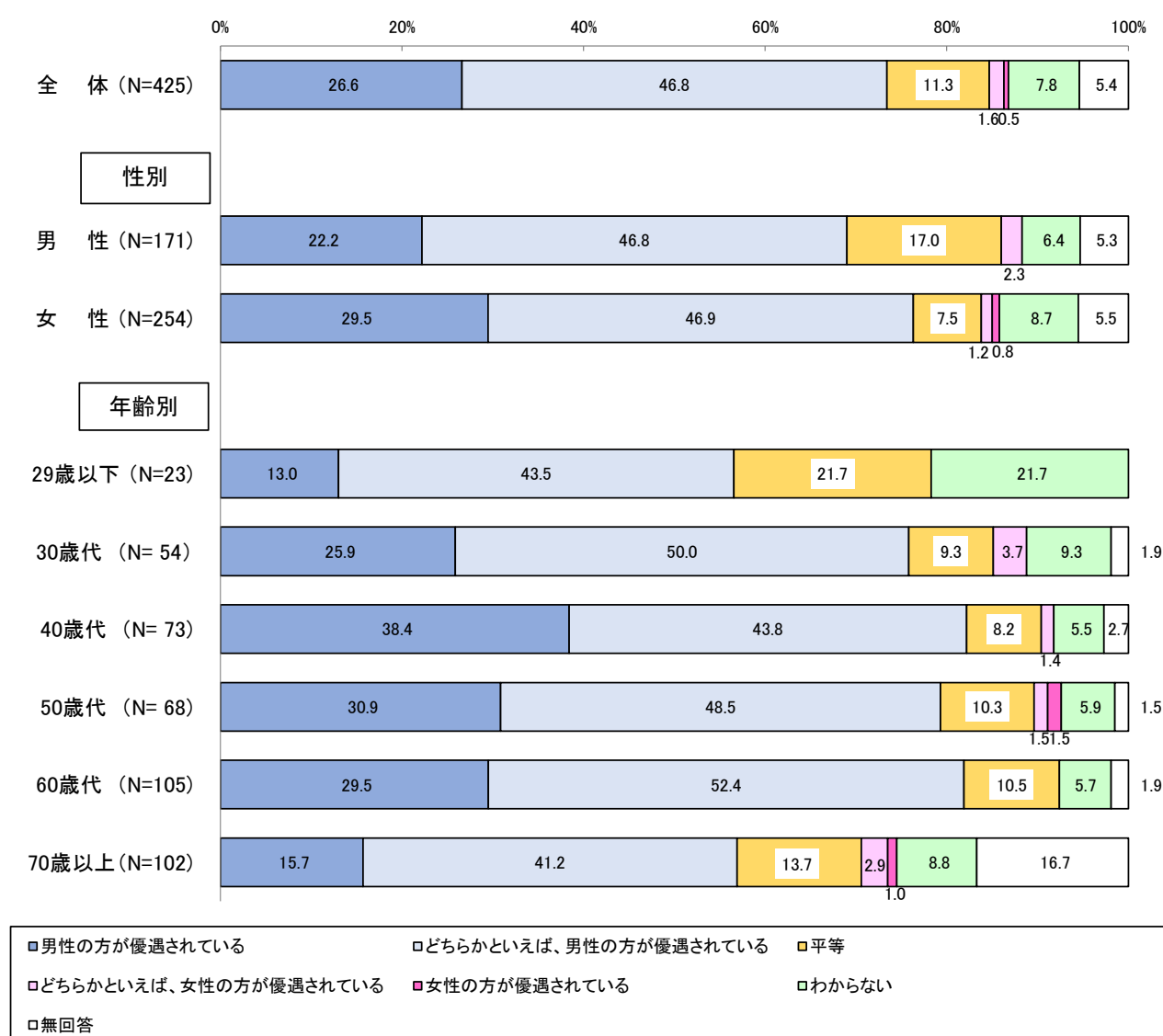
⑦ 社会通念・習慣・しきたりなどで

社会通念・習慣・しきたりなどにおいては、「男性の方が優遇されている」が26.6%、「どちらかといえば、男性の方が優遇されている」が46.8%と男性優遇とする人が73.4%である一方、「どちらかといえば、女性の方が優遇されている」が1.6%、「女性の方が優遇されている」が0.5%と女性優遇とする人が2.1%となっている。また、「平等」が11.3%、「わからない」が7.8%となっている。

男女別にみると、女性で男性優遇とする人が76.4%と多くなっている。

年代別にみると、「30～60 歳代」の各年代で男性優遇とする人が約8割と多くなっている一方、「29歳以下」は56.5%にとどまっている。

図表 9-1⑦ 男女平等に対する考え【社会通念・習慣・しきたりなどで】＜単数回答＞



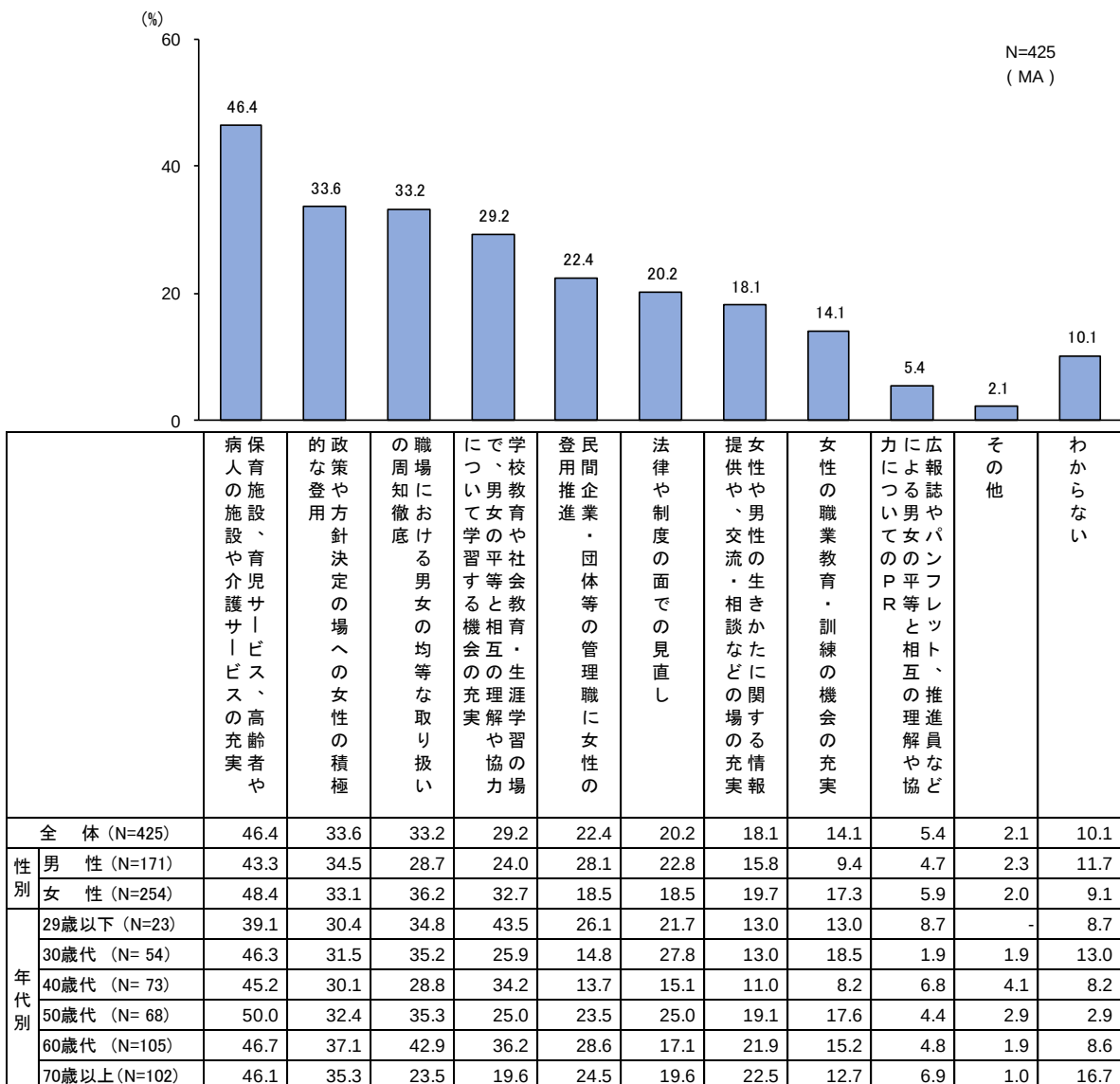
(2) 男女共同参画社会形成のために必要な施策

男女共同参画社会形成のために必要な施策についてきいたところ、「保育施設、育児サービス、高齢者や病人の施設や介護サービスの充実」が46.4%と最も多く、次いで「政策や方針決定の場への女性の積極的な登用」が33.6%、「職場における男女の均等な取り扱いの周知徹底」が33.2%、「学校教育や社会教育・生涯学習の場で、男女の平等と相互の理解や協力について学習する機会の充実」が29.2%の順となっている。

男女別にみると、男性は「民間企業・団体等の管理職に女性の登用推進」が女性に比べて多くなっている。一方、女性は「職場における男女の均等な取り扱いの周知徹底」、「学校教育や社会教育・生涯学習の場で、男女の平等と相互の理解や協力について学習する機会の充実」、「女性の職業教育・訓練の機会の充実」が男性に比べて多くなっている。

年代別にみると、「29 歳以下」で「学校教育や社会教育・生涯学習の場で、男女の平等と相互の理解や協力について学習する機会の充実」が最も多く、その他の年代は「保育施設、育児サービス、高齢者や病人の施設や介護サービスの充実」が最も多くなっている。また、「60 歳代」で「職場における男女の均等な取り扱いの周知徹底」が42.9%と他の年代に比べて多くなっている。

図表 9-2 男女共同参画社会形成のために必要な施策＜複数回答＞



(3) 女性の社会参画(参加)の促進や地位向上を図るためのご要望やご意見、または、男女平等に関するご意見など、自由回答

性別	年代	内 容
女性	40～49 歳	テレビで政治家が、独身女性に結婚しろとか、子供を産めとか問題発言をしている事に疑問を持つ。また、妊婦が仕事をする事に理解が薄かったり、精神的ダメージのある言動をするのは産まれた後の子供の人生にどれだけ影響を及ぼすか知ってほしい。少年事件や親の虐待はその産物だと思う。勉強ができて人も人を殺してみたいという思想は日本の教育制度の変化がもたらしたのかもしれない。良いこと、正しいことが肯定されバカにしない社会作りが必要かなと思う。市の職員の皆さんへ。公務員は多くの市民の様々な要望が意見に対して、少しでも実現できるよう日々努力されていると思う。ストレスも抱え込まれていると思いますが、上手くストレスを解消し柔軟性のある市の運営を行って頂けたら幸いです。
女性	60～69 歳	共働き、両親との別居などの場合は職場、家庭における男女共同参画社会はある程度納得するが、女性には子を産み育てる体がある。そして性格的に家庭で家事育児に専念したい人、男性でも家事が苦手な人もいる。全ての人に男女共同参画社会だからと言って参画を進めるのはどうだろうか。女性の社会、職場進出は、各地域、会社において保育施設をいくら増設しても少子化の一部にもつながっている気がする。各家庭において自分たちに合った生き方を考えれば良いのではないかな。
女性	50～59 歳	いつの時代になっても男性が有利だと思う。
男性	70 歳以上	自治振興会の長を男女交代で行うシステムを作る。議員の男女比率を同率にする。公務員の男女比率を同率にして採用。
女性	60～69 歳	最低でも 10 年間しっかり子育てしてから仕事に復帰する。長い目でみれば国家のためになり、人材を育てることになると思う。愛情豊かに育った人は、人にも寛容だと思う。女性の社会参加も大切だが、次代の人達の育成が最重要と考える。
男性	40～49 歳	そもそも性の違いがあるのに男と同等にという考えが良くなく、性の特徴に合わせた仕組みを考えないといつまでたっても平行性。学校教育で性の差別化をなくす考えは良くないと思う。女性らしさ、男性らしさを活かせる就業形態、教育も重要。男性目線と言われそうだが、らしさを失ってしまっただけは良い面も沢山失われると思う。男女にとられるのではなく、利益至上主義、経済依存生活を改善し、博愛精神を醸成できる社会であれば不平等感もなくなってくるのでは。
女性	60～69 歳	小さい子供がいる母親には残業をさせないような職場、また土日は休日に。(市役所の職員はどうですか。帰りが遅いと聞きます。)
男性	60～69 歳	男性の意識改革を待って男女共同参画社会を造り上げるのは何十年待ってもできないと思う。政府が民間企業の役員の女性比率を高める事を要請しているように政策に携わる人の女性比率を五割にするルール作りが先決と思う。
女性	60～69 歳	砺波市では男性の男女共同参画社会への意識が低いと思われる。いろんな機会に意識の改善が必要だと思う。

性別	年代	内 容
女性	50～59 歳	年配の方々の理解。以前の会社は男女平等だった。製造現場の仕事でしたが、以前は男性が主にしていた重労働も女性がするようになり、女性も長時間労働が当たり前でした。給料はどうだったか不明だが、男女平等とは男性の仕事も女性が同じようにすることなのですか。家庭崩壊に繋がりますよ。
女性	50～59 歳	婦人会役員の時に過労で退職せざるをえなくなった。今の時代、女性のみで運営している婦人会は、男女平等の世の中で本当に必要か。地域の男女が協働し地域を支える。そうした両性の特徴が生かされた組織、助け合い話しあう機会こそ大事なのではないか。
女性	30～39 歳	他の家はわかりませんが、家事や子供の迎えのため働き方や残業を女性のみが制限されている。（夫は好きなように残業してきて家事はしない）「女は残業できない」「責任ある仕事ができない」のは何のためか。幼稚園の預かりが6時までしかやっていないためです。もっと自由に働かせてください。
男性	70 歳以上	各ジャンルの学識ある方々の話が聞ける場を何度も設けてほしい。それを聞き、素晴らしい毎日の生活やポジティブな世の中を造っていきたい。
女性	40～49 歳	女性は家事をするものだという習慣を排除する為、学校教育、自治会がこれからの若者に教育すべきだと思う。
女性	30～39 歳	生理や出産など、女性にしかわからない苦しみがある一方、男性にしかわからない苦しみもあると思う。どうせわかってもらえないと思っていることを、感情的でなく、なぜわかってもらえないのかきちんと考え、お互いの視点から意見を交わしていけるようになればよい。
男性	60～69 歳	優秀な女性を役員登用すること。また登用するための対策をとって何かメリットを付けて交付の考え方はどうでしょう。
女性	70 歳以上	男女それぞれ役割があり、女性は子を産み家族を守る大役がある。どんな人間に育てるか、勉強する場があれば良い。子供を社会に送ってから自分のやりたかったことをして終わるのがよい。
男性	60～69 歳	現状が良い。男女平等よりも人格をつくること。
女性	30～39 歳	女は出産、育児のためにすぐに仕事を放棄する。といった男性の考え方に変化を求める
男性	60～69 歳	文に質問等をのせれば理想は高くなる。理解して書いているのか。そうではなく男も女も地面に足を着ける事。力一杯土まみれになって働くこと。
女性	60～69 歳	老老介護では難しいと思う。
女性	30～39 歳	子供を育てる際、会社を休まざるをえない時、休みにくいような雰囲気はよくない。働く場所が確保できないと経済的に子供を育てられない。
女性	40～49 歳	能力のある人なら、男女問わず力が発揮できるよう、「女のくせに」という考えをもたない社会にすること
男性	29 歳以下	子育て世代です。現在妻が妊娠中ですが、一人目の産前産後の一時保育ですら預けられる保育園がありません。まずはこうした女性の社会参加の障害となりうる事を改善してほしい。

性別	年代	内 容
男性	50～59 歳	何よりもチャンスを与えてくれる社会や上司がまず必要。社会参画を図る女性自身が自らの家庭事情や子育て状況を犠牲にしなければ、参画できない現状はいずれ破綻するし継続が困難となる。故に職場や家庭では協力理解が必要であり、女性自身も自らを奮い立たせて、へこたれず努力しなければならない。そうして歩んだ後に細い道ができ、やがて皆が歩ける道となると信じる。まだまだ遠いが先人の女性たちの勇気と努力と逞しさを今一度思い起こし女性自身が女性というより人間として人間力をつけるよう頑張らなければならないと思う。
男性	30～39 歳	女性が、「私、女だからできない」とすぐに諦める場面が多々ある。「私がやってやる」と言う気持ちがあるなら男性は逆に心配になってバックアップすると考えられます。
男性	40～49 歳	男が変わること。このアンケートを作ったのは？
女性	40～49 歳	男女平等ではない法律や制度は見直し改善してほしい。社会においては女性は優遇されるべきだと思う。
女性	40～49 歳	女性の方が家事、育児の負担が多いのは仕方のないことだと思う。子供にとっても母親に多く甘えたいと思うからです。ただ、仕事を男の人と同じくらいにできないことで、女性を軽視したり、男性優位にならないでほしい。男性が協力できないことをもっと感謝してほしい。
男性	70 歳以上	女性市会議員の増を目指す。地区代表的な立場で選ばれた市議が多いうちは難しい。全市的な見地の持ち主の市議を増やすためにも、市議の数を大幅に減らすことは女性議員の割合増になると思う。
男性	40～49 歳	女性＝男性は平等で当たり前。
女性	30～39 歳	職場の雰囲気や男性で他に誰もとっていないという理由で男性が家庭のために仕事を休めない。その結果、女性が休まなければいけない。男性の育児への参加率が低くなる。
女性	50～59 歳	男女平等を言うよりは、互いに尊重し合う方が大事だと思う。
女性	50～59 歳	地域活動などで、自由に相談する（男女の役割、協力）意見を述べ合う場を持つ。
女性	70 歳以上	同じ職場で男性の方が少し給料が高いということは、大変な女性が生きがいがない
女性	70 歳以上	男女平等という思いは大分浸透してきていると思うのでことさら言う必要はないのでは。性が違えば特色も違っているのを各自が考えて歩むべきものと感じている。
女性	60～69 歳	家庭での教育が必要。父または夫が暴力を振るうなどがあると必ず連鎖がおこる。断ち切るためにも家族の在り方を考える教育を学校、地域などでサポートしていくべきでは。
女性	50～59 歳	子供の教育カリキュラムの中に男女共同参画の概念を取り入れワークライフバランスダイバーシティが当たり前になっていく世の中にするのが大切と思う。

使用した調査票

男女共同参画に関するアンケート調査

ご記入に際してのお願い

- 1 本調査は ☐ 内にしを付けて、☒ の形式にして回答いただくものです。
- 2 設問によって回答の数が (☒ 1つ) (☒ 3つまで) などと決められていますのでお間違えのないようご注意ください。また、その他()内は具体的にご記入ください。
- 3 設問によって回答をいただく方が異なります。設問の前の指示に従って記入してください。

【1 結婚・家庭生活】

問1 結婚・家庭についての次のような考え方について、あなたの考え方に最も近いものはどれですか。

(1)～(5)について、それぞれ1つ選び、該当するものに☒ をつけてください。

区分	1 賛 成	2 いえは賛成 どちらかと	3 いえは反対 どちらかと	4 反 対	5 わ か ら な い
(1)結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい	☐	☐	☐	☐	☐
(2)結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない	☐	☐	☐	☐	☐
(3)夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである	☐	☐	☐	☐	☐
(4)夫も妻も、共同して家事・育児・介護をするべきである	☐	☐	☐	☐	☐
(5)夫も家事・育児・介護を手伝うべきである	☐	☐	☐	☐	☐

問2 あなたにとって結婚が負担に感じられることはどんなことですか。(2つまで☒)

- 1 ☐ 自由に使えるお金が少なくなる
- 2 ☐ 趣味などやりたいことができる時間が少なくなる
- 3 ☐ 異性との交際が自由にできなくなる
- 4 ☐ 配偶者に対する配慮や親戚づきあいなどわずらわしいことが多くなる
- 5 ☐ 仕事がやりにくくなる
- 6 ☐ 家事・育児・介護の負担が多くなる
- 7 ☐ その他()
- 8 ☐ 特にない
- 9 ☐ わからない

問3 配偶者のいる方にお聞きます。現在、あなたの家庭では、次にあげるような家事などを、主に誰が分担していますか。(1)～(6)について、それぞれ1つ選び、該当するものに☑をつけてください。

区分	1 夫	2 妻	3 夫婦共同 (同じ程度)	4 自分または 配偶者の父親	5 自分または 配偶者の母親	6 子ども(男)	7 子ども(女)	8 その他
(1) 掃除	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
(2) 食事のしたく	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
(3) 食事の後片付け、食器洗い	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
(4) ゴミ出し	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
(5) 育児(乳幼児がいる場合)	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
(6) お年寄りの介護(該当者がいる場合)	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐

問4 男性が女性とともに家事・育児・介護などに積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。(3つまで☑)

1	☐	男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと
2	☐	男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと
3	☐	夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること(十分な話し合いなど)
4	☐	年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること
5	☐	社会の中で、男性による家事、子育て、介護等についてもその評価を高めること
6	☐	労働時間の短縮や休暇制度を普及させることで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること
7	☐	男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること
8	☐	家事などを男女で分担するようなしつけや育て方をする
9	☐	男性の男女共同参画に対する関心を高めること
10	☐	男性が仕事中心の生きかた、考え方を改めること
11	☐	夫が家事などをするに妻が協力すること
12	☐	その他()
13	☐	わからない

【2 職業】

問5 女性の働き方について、あなたが望ましいと思うのは、次のうちどれですか。また、実際はどのようになりそうですか(なりましたか)。女性であればあなた自身、男性であればあなたの配偶者についてお答えください。(現在、配偶者のいない方はいと仮定してお答えください。)
理想と実際の働き方、それぞれ1つ選んで、その番号を記入してください。

1	結婚するまで職業を持つ
2	子どもができるまでは、職業を持つ
3	子どもができて、ずっと職業を続ける
4	子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ
5	その他()
6	わからない

女性の理想の働き方	
女性の実際の働き方	

問6 女性が働き続ける上で、障害になると思われることは何ですか。(3つまで☑)

1 ☐ 出産・育児	2 ☐ 高齢者や病人の世話
3 ☐ 家事	4 ☐ 夫の転勤
5 ☐ 自分の健康	6 ☐ 家族の理解や協力が得られない
7 ☐ 仕事の内容にやりがいがない	8 ☐ 職場での結婚・出産退職の慣行
9 ☐ 働き続けられるような職場の条件・制度が不十分	
10 ☐ 昇進・教育訓練などにおける男女の不公平な取扱い	
11 ☐ 女性はすぐ辞める、労働能力が劣るという考え方	
12 ☐ 障害になることはない	
13 ☐ その他 ()	
14 ☐ わからない	

【3 ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)】

問7 あなたは、「ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)が実現された社会」に近づくためには、(1)企業や、(2)行政において、どのような取組みが必要だと思いますか。(1)(2)のそれぞれについて当てはまるものすべてに☑をつけてください。

(1) 企業

1 ☐ 企業の経営者や管理職の意識改革
2 ☐ 育児・介護休業を取りやすく、復帰しやすい仕組みづくり (休業中の代替要員の確保、休業者への情報提供、職業能力の開発・向上など)
3 ☐ 時間短縮勤務など、柔軟な働き方の実現
4 ☐ 年次有給休暇を取りやすい職場づくり
5 ☐ 育児・介護などによりいったん退職しても復帰できる再雇用制度の充実
6 ☐ 長時間労働の抑制のための業務見直しや要員の確保、職場の風土改革
7 ☐ 育児・介護で仕事を休んでも不利にならない人事評価制度
8 ☐ パートタイム勤務者に対する賃金・労働条件などの待遇改善
9 ☐ その他 ()

(2) 行政

10 ☐ 育児や介護の施設・サービスの充実
11 ☐ ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和) 実現のための意識啓発
12 ☐ 男性の子育て等への関わりの促進
13 ☐ 積極的に取り組む企業への支援
14 ☐ その他 ()

問8 仕事と家庭生活・地域活動について、女性、男性それぞれの生き方としてあなたが望ましいと思うのは、どのような生き方でしょうか。それぞれ1つ選んで、その番号を記入してください。

1 家庭生活・地域活動よりも仕事に専念する
2 家庭生活・地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる
3 家庭生活・地域活動と仕事を同じように両立させる
4 仕事にも携わるが、家庭生活・地域活動を優先させる
5 仕事よりも家庭生活・地域活動に専念する
6 わからない

→	男性の生き方	
	女性の生き方	

【4 子ども】

問9 あなたの理想とする子どもの数は何人ですか。また、あなたは実際には生涯に何人子どもを持つつもりですか(持ちましたか)。(1)～(2)について、それぞれ1つ選んで、☑をつけてください。

区分	1人	2人	3人以上	0人	わからない
(1)理想の子どもの数	☐	☐	☐	☐	☐
(2)実際の子どもの数	☐	☐	☐	☐	☐

問9で理想よりも実際に持つつもり(持った)子どもの数が少ない方にお聞きます。

問10 子どもの数が理想より少ない理由はなんですか。(3つまで☑)

1 ☐ 経済的負担が増えるのは大変だから 2 ☐ 健康上の理由から 3 ☐ 出産・育児の精神的、肉体的負担が大変だから 4 ☐ 子育て以外にも時間を使いたいことがあるから 5 ☐ 住居が狭いから 6 ☐ 仕事を続けることができなくなるから 7 ☐ 子どもが好きではないから 8 ☐ 配偶者の理解と協力が得られないから 9 ☐ 配偶者以外の家族の理解と協力が得られないから 10 ☐ 行政や企業の子育てに対する支援が不足しているから 11 ☐ 子どもがのびのび育つ環境ではないから 12 ☐ 欲しいけれどもできないから 13 ☐ その他 () 14 ☐ わからない

【5 高齢期、介護】

問11 あなたは、自分の老後について不安だと思いませんか。(3つまで☑)

1 ☐ 病気になったときのこと 3 ☐ 配偶者に先立たれること 5 ☐ 適当な仕事がないこと 7 ☐ 趣味や生きがいがないこと 9 ☐ 老人に関する制度(年金・医療・介護)が度々変わり、見通しがたたないこと 10 ☐ 不安はない 11 ☐ その他 ()	2 ☐ 生活費のこと 4 ☐ 面倒を見てくれる身寄りが ない こと 6 ☐ 話し相手がないこと 8 ☐ 安心して入れる施設が少ないこと
--	---

問12 もし、あなたが介護を受けるとしたら、介護保険サービスを利用しながらも、主に誰に介護してもらいたいですか。(1つだけ☑)

- | | |
|---|--------------------------------------|
| 1 ☐ 配偶者(夫又は妻) | 2 ☐ 息子 |
| 3 ☐ 娘 | 4 ☐ 息子の配偶者 |
| 5 ☐ 娘の配偶者 | 6 ☐ その他の家族・親戚 |
| 7 ☐ ホームヘルパー・訪問看護師等の専門家 | 8 ☐ 入所した施設 |
| 9 ☐ その他() | |

問13 あなたは、一般的にいて、親の老後は子ども夫婦と同居したほうがよいと思いますか。それとも別居したほうがよいと思いますか。(1つだけ☑)

- | |
|--|
| 1 ☐ どのような場合でも子ども夫婦と同居するほうがよい |
| 2 ☐ 夫婦のどちらかの身体が弱くなったときは、同居するほうがよい |
| 3 ☐ 夫婦のどちらかが一人になったときは、同居するほうがよい |
| 4 ☐ 子ども夫婦とは別居したほうがよい |
| 5 ☐ わからない |

【6 社会参加・地域】

問14 あなたは、現在、仕事以外の次のような活動に参加していますか。(自分個人のための活動を除く。)(あてはまるものすべてに☑)

- | |
|---|
| 1 ☐ 社会奉仕活動などのボランティア活動 |
| 2 ☐ 自治会、婦人会、児童クラブ、老人クラブなどの地域活動 |
| 3 ☐ PTA など学校の役員・委員 |
| 4 ☐ 参加していない |
| 5 ☐ その他() |

問15 今後、人々が地域での活動に参加しやすくするためには、どのようなことが必要だと思いますか。

(3つまで☑)

- | |
|--|
| 1 ☐ 地域の人々に対して啓発を行う |
| 2 ☐ 地域の団体やイベントに関しての情報を提供する |
| 3 ☐ 役職者やリーダーになる人が固定化しないようにする |
| 4 ☐ 女性が多く役職者やリーダーにつくようにする |
| 5 ☐ 仕事や子育て・介護などで忙しい人も活動しやすいように活動の方法や内容を工夫する |
| 6 ☐ 単身者や男性なども気軽に参加できるような雰囲気をつくる |
| 7 ☐ 活動した人が優先的にサービスを受けられるような仕組みをつくる |
| 8 ☐ どんなことをしても、地域活動への参加が活発になることはないと思う |
| 9 ☐ その他() |

【7 政策・方針決定】

問 16 あなたは女性の意見が政治や行政にどの程度反映されていると思いますか。（1つだけ☑）

- 1 ☐ 十分反映されている → 問 19へ
- 2 ☐ ある程度反映されている
- 3 ☐ あまり反映されていない
- 4 ☐ ほとんど反映されていない

問 16で「2～4」を選んだ方にお伺いします。

問 17 女性の意見が政治や行政に十分反映されていないと思う理由はなんですか。（3つまで☑）

- 1 ☐ 女性議員が少ない
- 2 ☐ 行政機関の上層部に女性が少ない
- 3 ☐ 女性自身の意欲や責任感が乏しい
- 4 ☐ 女性自身が消極的である
- 5 ☐ 男性の認識、理解が足りない
- 6 ☐ 社会の仕組みが女性に不利である
- 7 ☐ 女性の能力に対する偏見がある
- 8 ☐ その他（ ）

問 18 政策・方針決定の場に女性の参画が少ないのはどのような理由からだと思いますか。（3つまで☑）

- 1 ☐ ○○会長は男性がするものといった従来からの性別役割分担意識があるから
- 2 ☐ 男性優位の組織運営があるから
- 3 ☐ 家族の理解や協力が得られないから
- 4 ☐ 女性は必要な知識や判断力が十分でないから
- 5 ☐ 女性の活動を支援するネットワーク等が不足しているから
- 6 ☐ 女性自身が参画することに消極的であるから
- 7 ☐ 女性の参画が重要であるという意識を持つ男性が少ないから
- 8 ☐ その他（ ）
- 9 ☐ わからない

【8 DV（配偶者や恋人など親密な関係にある人からの「暴力」）】

問19 あなたは、今までに配偶者（夫又は妻）や恋人から次のような行為を受けたことがありますか。

下の(1)～(14)について、それぞれ1つ選び、該当するものに☑ をつけてください。

区分	1 あった 1 何 度もあ	2 あった 1～2 回	3 全くな かった
(1) 殴る、蹴る	☐	☐	☐
(2) 物を投げつける	☐	☐	☐
(3) 首を絞める	☐	☐	☐
(4) 大声でどなる	☐	☐	☐
(5) 汚い言葉や人格を否定するような言葉でののしる	☐	☐	☐
(6) 何を言っても無視する	☐	☐	☐
(7) 電話や郵便物を監視・制限する	☐	☐	☐
(8) 携帯のメールを監視したり、メールでの嫌がらせをする	☐	☐	☐
(9) 金銭的な自由を与えない	☐	☐	☐
(10) 外で働くことを妨害する	☐	☐	☐
(11) 性行為の強要	☐	☐	☐
(12) 見たくないポルノ雑誌などを見せる	☐	☐	☐
(13) 避妊に協力しない	☐	☐	☐
(14) その他（ ）	☐	☐	☐

問19の(1)～(14)で1つでも「1 何度もあった」「2 1～2回あった」に☑をつけた方にお伺いします。

問20 このような行為をされたことを誰かに相談しましたか。（1つだけ☑）

1 ☐ 相談した	} →	問22へ	
2 ☐ 相談しなかった		} →	問21へ
3 ☐ 相談できなかった			

問20で「2 相談しなかった」「3 相談できなかった」を選んだ方にお伺いします。

問21 誰にも相談しなかった、相談できなかった理由は何ですか。（あてはまるものすべてに☑）

1 ☐ どこ（誰）に相談したらよいのかわからなかったから
2 ☐ はずかしくて誰にも言えなかったから
3 ☐ 相談しても無駄だと思ったから
4 ☐ 相談したことがばれると、仕返しやもっとひどい暴力を受けると思ったから
5 ☐ 自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから
6 ☐ 自分にも悪いところがあると思ったから
7 ☐ 相談するほどのことではないと思ったから
8 ☐ その他（具体的に： ）

【9 男女共同参画社会】

問 22 あなたは次の分野における男女平等についてどのように思いますか。

下の(1)～(7)について、それぞれ1つ選び、該当するものに☑ をつけてください。

区分	1 男性の方が 優遇されている	2 どちらかとい えば、男性の方が 優遇されている	3 平等	4 どちらかとい えば、女性の方が 優遇されている	5 女性の方が 優遇されている	6 わからない
(1)家庭生活で	☐	☐	☐	☐	☐	☐
(2)地域活動の場で	☐	☐	☐	☐	☐	☐
(3)職場で	☐	☐	☐	☐	☐	☐
(4)学校教育の場で	☐	☐	☐	☐	☐	☐
(5)政治の場で	☐	☐	☐	☐	☐	☐
(6)法律や制度の上で	☐	☐	☐	☐	☐	☐
(7)社会通念・習慣・しきたりなどで	☐	☐	☐	☐	☐	☐

問 23 「男女共同参画社会」を形成していくため、今後、行政はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。（3つまで☑）

1 ☐ 法律や制度の面での見直し 2 ☐ 政策や方針決定の場への女性の積極的な登用 3 ☐ 民間企業・団体等の管理職に女性の登用推進 4 ☐ 職場における男女の均等な取り扱いの周知徹底 5 ☐ 女性の職業教育・訓練の機会の充実 6 ☐ 保育施設、育児サービス、高齢者や病人の施設や介護サービスの充実 7 ☐ 学校教育や社会教育・生涯学習の場で、男女の平等と相互の理解や協力について学習する機会の充実 8 ☐ 女性や男性の生きかたに関する情報提供や、交流・相談などの場の充実 9 ☐ 広報誌やパンフレット、推進員などによる男女の平等と相互の理解や協力についてのPR 10 ☐ その他（ ） 11 ☐ わからない

問 24 女性の社会参画(参加)の促進や地位向上を図るために、具体的に、ご要望やご意見、または、男女平等に関するご意見がありましたら、自由にご記入ください。

--

【 ご協力ありがとうございました 】

記入もれがないかご確認のうえ、同封の返信用封筒に入れて、郵送願います。(切手不要)

男女共同参画に関するアンケート調査
報 告 書

砺波市企画総務部企画調整課 広報協働係

〒939-1398 砺波市栄町7番3号

TEL (0763) 33-1111

FAX (0763) 33-5325

メールアドレス kikaku@city.tonami.lg.jp

ホームページアドレス <http://www.city.tonami.toyama.jp>